

新潟県立看護大学 自己点検評価報告書

－専任教員の活動業績－

－各種委員会の活動報告－

平成28年3月



新潟県立看護大学
Niigata College of Nursing

専任教員の活動業績

1 研究、社会及び学内教育活動業績

(1) 制作要件

「研究活動」と「社会活動」及び「学内教育活動」について、平成27年4月から平成28年3月までの12ヶ月間の期間について、本学の在職各教員から申告のあった国内外における活動(業績)の一覧である。

ア 27年12月末日までに退職ないし転職している教員のものは含まない。

イ 原則として、各教員が提出されたものを修正せず掲載する。

ウ 掲載の順番は領域順・科目群順とし、個人は平成28年3月現在の職位順ついで採用順に掲載する。

エ 掲載に際して職位名等はいれず、氏名のみの表示とする。

オ 平成27年4月以降12月までに着任した専任教員の業績についても、ウに従って掲載する。

(2) 活動業績掲載順

【共通科目】			
I 人間環境科学領域			
社会科学	藤田 尚	石原 千晶	46
	渡辺 弘之	石岡 幸恵	47
	徐 淑子	鬼形 充智	49
情報科学	橋本 明浩	大崎 麻美	50
	永吉 雅人	小児看護学 大久保 明子	51
	エルダトン・サイモン	山田 真衣	53
		北村 千章	55
		高橋 祥子	58
II 生物医学領域		母性看護学 加城 貴美子	59
自然科学	関谷 伸一	中澤 紀代子	61
	境原 三津夫	天谷 まり子	62
	野村 憲一	助産学 高島 葉子	64
		高塚 麻由	66
		風間 みえ	68
【専門科目】			
III 基礎看護学領域			
看護管理学	岩永 喜久子	V 地域生活看護学領域	
	山岸 まなほ	老年看護学 小泉 美佐子	69
基礎看護学	水口 陽子	原 等子	71
	岡村 典子	安藤 亮	74
	川島 良子	真貝 早悠里	75
	谷内田 潤子	大倉 由貴	76
	内藤 みほ	精神看護学 田口 玲子	77
		後田 穰	79
IV 臨床看護学領域		伊藤 ひかる	80
成人看護学	石田 和子	安達 寛人	81
	高柳 智子	地域看護学 平澤 則子	82
	酒井 禎子	飯吉 令枝	84
	山田 正実	高林 知佳子	86
	飯田 智恵	井上 智代	88
	小林 綾子	野口 裕子	90
	渡邊 千春	久保野 裕子	91

藤田 尚

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

金澤英作・葛西一貴 編著, 五十嵐由里子・海部陽介・加藤均・河野礼子・近藤信太郎・藤田尚・山田博之 分担執筆 (2015 年再版) : う蝕と歯周病の人類学, 「歯科に役立つ人類学」, 109-125, わかば出版

4. 学会発表

藤田 尚 (2015.6.14) : 歯科古病理学的視点から口腔衛生のビジョンを考える, 第 26 回日本老年歯科医学会総会・学術大会. (パシフィコ横浜).

Fujita, H. and Fujisawa, O. S. (16th July, 2015) : Prevention of Periodontal Diseases in Modern Times based on the Number of Remaining Teeth in Ancient Skeletal Remains. IUAES 2015, Thammasat University, Bangkok, Thailand.

藤田 尚, 柳沢清一, 山田俊輔, 村上浩代 (2015.10.11) : 10 世紀のオホーツク文化期の大腿骨の骨幹部変形治癒骨折について, 第 69 回日本人類学会シンポジウム『骨折の古病理学, オーガナイザー兼務』. 産業技術総合研究所. (東京).

藤田 尚 (2015.11.5) : 「ケンブリッジ大学所蔵の骨格から推測される近代ソマリア人の健康」第 74 回日本公衆衛生学会総会. (長崎新聞文化ホール).

5. その他の研究活動

- ・東京大学大学院理学系研究科客員共同研究員
- ・地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター協力研究員
- ・英国ケンブリッジ大学招聘研究員 (2015 年 3 月 14 日ー3 月 30 日まで渡英研究)
- ・モンゴル国立大学客員教授 (2015 年 5 月 11 日ー5 月 18 日訪問の上、講義)
- ・カンボジア国芸術文化省にて、今後の研究等協議 (2015 年 8 月 30 日ー9 月 3 日)

【学会等における活動】

- ・日本人類学会評議員
- ・日本旧石器学会幹事
- ・日本旧石器学会会誌委員
- ・日本旧石器学会研究企画委員
- ・日本人類学会遺伝分科会幹事
- ・APA 委員 (アジア旧石器学会 2016 年東京大会運営委員)

- Editorial Manager in *Anthropological Science*
- Editorial Manager in *Anatomical International*
- Editorial Manager in *Geriatrics and Gerontology International*

【社会活動】

- 早稲田大学文学学術院非常勤講師
- 桜美林大学健康福祉学群非常勤講師
- 九州大学大学院地球社会統合学府非常勤講師
- 看護交流研究センター出前授業（子育ては慌てずゆっくり）
- 看護研究交流センター出前授業（死亡原因から現代社会を考える）

【学内教育活動】

学部：自然人類学、基礎ゼミナール7、ふれあい実習

大学院：人類学特論

【学内委員会等の活動】

図書委員会、倫理委員会、情報ネットワーク特別委員会、情報ネットワーク実行部会

【外部資金獲得】

なし

渡辺 弘之

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

渡辺弘之（2015.11.21）：ハンセン病患者にとっての「社会復帰」とはーベトナムにおける事例よりー.
第30回日本国際保健医療学会学術大会. (金沢市).

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学部：基礎ゼミナール、ふれあい実習、社会学、社会福祉概論、地域社会と住民組織、専門ゼミナール
大学院：老年看護学特論Ⅰ

【学内委員会等の活動】

教務委員会、国家試験対策・就職委員会、国際交流委員会、ハラスメント防止特別委員会、2学年担任

【外部資金獲得】

なし

徐 淑子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

Suh, Sookja & Ikeda, Mitsuho (2015) : Compassionate Pragmatism on the Harm Reduction Continuum : Expanding the Options for Drug and Alcohol Addiction Treatment in Japan, *Communication-Design*, 13, 63-72. (査読無)

徐淑子他 (2015): アディクションの問題をもつ女性に向けた情報提供を目的とする iPhone アプリの作成, *日本アルコール関連問題学会雑誌*, 17(1), 143-149. (査読有)

Ikeda, Mitsuho & Suh, Sookja (2015) : From Where does Our Health Come?: The Sociology of Antonovsky's Salutogenesis , *Communication-Design*, 14, 81-91. (査読無)

3. 著書

なし

4. 学会発表

徐淑子(2015.10.12): オランダで断酒・断薬をめざす人々ーハーム・リダクションを採用している国における依存症の当事者活動, 平成27年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会・第3回アルコール問題関連学会, 神戸国際会議場 (兵庫県).

徐淑子(2015.9.6): インタヴェンション・マッピングを利用した行動科学教育の授業設計, 第7回日本ヘルス・コミュニケーション学会学術集会, 西南学院大学 (福岡県).

5. その他の研究活動

研究会等での報告

徐淑子(2015.12.23): アンフェタミン系ユーザーへのハーム・リダクションー第24回国際ハーム・リダクション会議での報告・討議より, 石塚班文部科研公開研究会「セットアップ”ハーム・リダクション“～非犯罪化政策へ動き出す世界の薬物政策～」, アパリ・インテグレーション・センター (東京).

徐淑子(2015.11.26): ハーム・リダクションの基本の考え, 女性とアディクション研究会2015年11月定例会, ギャンブル依存症問題を考える会事務局 (東京).

SUH, Sookja (2015.7.30) : Harm Reduction/Tolerance vs. Abstinence/Zero-Tolerance? A Brief Discussion on the interventions for drug problems in Japan and in the Netherlands, Social Policies and Pragmatic Tolerance in Amsterdam, Amsterdam University Institute of Social Science Summer Course, Amsterdam University.

【学会等における活動】

- ・女性とアディクション研究会・代表発起人
- ・日本保健医療社会学会
- ・日本保健医療行動科学会
- ・日本健康教育学会・日本ヘルス・コミュニケーション学会
- ・日本アルコール問題関連学会
- ・日本エイズ学会
- ・International Sociological Association/RC49精神保健社会学部会
- ・国際ヘルスプロモーション健康教育連盟
- ・日本精神保健福祉士協会

【社会活動】

①非常勤等

- ・大阪大学コミュニケーション・デザイン・センター招聘教員
- ・北里保健衛生専門学院非常勤講師
- ・桐生大学非常勤講師

②講演等

- ・わたしのメッセージ・共感，第3回香川ダルクフォーラム，平成27年度 香川県地域自殺対策強化事業，香川県薬剤師会朝日会館，香川県．(2015.12.12)
- ・子どもたちに伝えたい性のこと，平成27年度性教育講演会，柏崎市教育センター，新潟県．(2015.11.25)

【学内教育活動】

学部：基礎ゼミナール2、保健・医療行動科学

大学院：健康社会学

【学内委員会等の活動】

入学小委員会、FD委員会、研究推進委員会

【外部資金獲得】

科学研究費助成金

挑戦的萌芽研究「(研究課題名) ハームリダクション時代の依存症ケア：日蘭の文化的差異をふまえた国際比較研究(15K13084)」(研究代表者：徐淑子)

橋本 明浩

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

Akihiro HASHIMOTO , Sonomi OKAZAKI, Naoko HARA (2016) : Analyzing the Effect of Green Tea Leaf Treatment for Hand Contracture, Book of Abstract and proceedings 45, Global Illuminators, Kuala Lumpur Malaysia, Editor Dr. Ahmed S. Phd. (査読有)

3. 著書

Akihiro Hashimoto and et. al. (2015) : Finding factors inhibiting e-learning system for nurses living in Niigata prefecture, eBook, Taipei University.

4. 学会発表

Akihiro Hashimoto (2015.8.24-27) : On Factors inhibiting e-learning system for nurses living in Niigata Prefecture Global Forum on Health Research and Innovation for Health 2015 , Philippine.

Sonomi Okazaki, Naoko Hara, Simon Elderton, Akihiro Hashimoto(2016.2.23) : Analysing the Effect of Green Tea Leaf Treatment for Hand Contracture; randomized controlled trial, Manila 3rd International Conference on “Medical, Medicine and Health Sciences”, (Manila, Philippines).

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本看護科学会
- ・日本公衆衛生学会
- ・統計情報研究会

【社会活動】

- ・看護研究交流センター公開講座講師 「エクセル統計解析」 (2015.10.3)

【学内教育活動】

学部：情報科学、情報処理演習、保健統計学演習、基礎ゼミナール、ふれあい実習

大学院：看護情報統計学

【学内委員会等の活動】

情報ネットワーク特別委員会委員長、図書委員会副委員長、情報ネットワーク実行部会副部長、法人ワーキンググループ

【外部資金獲得】

なし

【研究活動】

1. 原著論文

野村憲一, 岩野瑞葵, 小林奈央, 佐藤由奈, 鈴木美雨, 須戸舞花, 高浪美玖, 永井彩楓, 中澤ちなみ
堀愛, 宮下真由, 永吉雅人, 高島葉子(2015): 階段幅は妊婦の心拍数に影響を与えるか 妊婦体験ジ
ヤケットを用いたシミュレーション, 看護実践の科学, 40(11), 67-72. (査読有)

野村憲一, 浅野友里奈, 五十嵐悠里, 石川弘都, 小倉優一郎, 金子愛, 金田新菜, 家納美夏, 鴨井未来,
高野世有, 土田美咲子, 堀井れもん, エルダトン・サイモン, 永吉雅人, 森橋真一, 馬場慎太郎, 今
田亜樹 (2015): 助け合いの精神を看護学生に実感させるゼミナール 妙高市長沢のお祭りに笛部隊
として参加, 看護実践の科学, 40(12), 64-68. (査読有)

酒井禎子, 小林綾子, 山田真衣, 水口陽子, 平澤則子, 永吉雅人, 杉田収 (2016): 首都圏に在住する勤
労世代が求める上越・妙高地域における「メディカル・グリーン・ツーリズム」の要素, 新潟県立看
護大学紀要第 5 巻, 10-14. (査読有)

永吉雅人, 杉田収 (2016): 上越市居多ヶ浜の砂鉄を加えた陶器による味の違いに関する研究, 新潟の
生活文化, 22, 17-20. (査読有)

2. その他の論文

M. Nagayoshi and K. Sakakibara(2015): REINFORCEMENT LEARNING APPROACH FOR
NEGOTIATION-RULES ACQUISITION IN AGV TRANSPORTATION SYSTEMS, Proc. of
International Symposium on Scheduling 2015(ISS2015), 62-66(2A4), 神戸. (査読有)

M. Nagayoshi, S. Elderton, K. Sakakibara and H. Tamaki(2015): A Negotiation-rules Acquisition
Method in AGV Transportation Systems by Reinforcement Learning, Proc. of World Engineering
Conference and Convention 2015 (WECC2015), 1-5(PS4-3-11(on DVD-ROM)), 京都. (査読有)

Elderton Simon J.H., Kitamura Chiaki, Nakagomi Satoko, Nagayoshi Masato, Yamada Mai (2016): A Literature
Review on 22q11.2 Deletion syndrome: The need for patient and family care management in Japan, 日本遺伝
看護学会誌, 14(2), 53-63. (査読有)

坂詰朱美, 塚田文枝, 田中亜裕美, 相羽綾子, 古澤絵美, 廣瀬洋美, 柳澤麻衣, 栗崎裕子, 高島葉子,
高塚麻由, 永吉雅人(2015): 新生児の臍帯ケアをアルコール消毒から水分拭
き取りに切り替えた効果, 平成 26 年度看護研究交流センター活動報告書, 75-78. (査読無)

永吉雅人(2015): 2014 International Conference on Neural Information Processing, 立石科学技術振
興財団助成研究成果集第 24 号, 146. (査読無)

3. 著書

なし

4. 学会発表

永吉雅人, Elderton Simon, 榊原一紀 (2015.8.26): AGV 経路計画における強化学習
を用いた交渉ルールの一獲得法: 最適解との比較, 平成 27 年電気学会電子・情報・シス

テム部門大会, 63-67 (TC3-4(on CD-ROM)). (長崎).

北村千章, 中込さと子, Elderton Simon, 永吉雅人, 山田真衣 (2015.10.10) : 22q11.2 欠失症候群に関する文献レビュー-22q11.2 欠失症候群をもつ人々のための長期的なマネジメントの示唆-, 日本遺伝看護学会誌, 14(1), 31. (熊本).

坂詰朱美, 塚田文枝, 田中亜裕美, 相羽綾子, 古澤絵美, 廣瀬洋美, 柳沢麻衣, 栗崎裕子, 高島葉子, 高塚麻由, 永吉雅人 (2015.11.6) : 新生児の臍帯ケアをアルコール消毒から水分拭き取りに切り替えた効果. 第 46 回日本看護学会ヘルスプロモーション. (富山).

永吉雅人, Elderton Simon, 榊原一紀, 玉置久 (2015.11.20) : 強化学習による交渉ルール学習を用いた AGV 経路計画システム : 自律分散方式に関する検討, 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 (SSI2015), 1021-1025 (SS15-1(on DVD-ROM)). (函館).

永吉雅人, Elderton Simon, 榊原一紀 (2015.12.7) : 強化学習による交渉ルール学習を用いた自律分散型 AGV 経路計画システム : 環境変化に対する性能, 電気学会システム研究会, 1-6 (ST-15-025). (上越).

5. その他の研究活動

メディカルグリーンツーリズムの取組について, 高等教育コンソーシアムにいがた産学官連携研修会, 活動報告, 新潟. (2015.11.12)

土田美咲子, 野村憲一, 堀井れもん, エルダトン・サイモン, 永吉雅人 (2015.10.24) : 妙高市長沢地区の祭り「よみや」で用いられる明笛, 平成 27 年度新潟県生活文化研究会年次大会. (新潟).

【学会等における活動】

1. 学会会員

- ① システム制御情報学会
- ② 電気学会
- ③ 計測自動制御学会
- ④ 遺伝看護学会

2. 委員会

- ① 電気学会 電子・情報・システム部門 システム技術委員会
学習アルゴリズムの高度化を指向した機械学習技術協同研究委員会 幹事
- ② 計測自動制御学会 システム・情報部門 運営委員会 会計幹事
- ③ 計測自動制御学会 学会賞委員会 委員

3. 査読

- ① 電気学会 C 部門誌 論文幹事 4 papers(2015.4-2015.12)

4. 座長等

- ① 電気学会電子・情報・システム部門大会 TC3 機械学習技術における最新の研究動向 第 2 部 座長(2015.8.26)

- ② 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2015 SS15 システム・モデリングと最適化 オーガナイザー(2015.11.20)
- ③ 電気学会システム/産業計測制御合同研究会 企画・運営 (35 名参加) (2015.12.5)
- ④ 電気学会システム研究会 企画・運営 (31 名参加) (2015.12.6)

【社会活動】

- ① NPO 法人 関川水辺クラブ 監事
- ② 新潟経営大学 非常勤講師
- ③ どこでもカレッジ公開講座「わかりやすいプレゼンテーションのやりかた」講師 (2015.9.29)

【学内教育活動】

学部：情報処理演習、情報科学、ふれあい実習、基礎ゼミナール、疫学、保健統計演習)

大学院：なし

【学内委員会等の活動】

情報ネットワーク特別委員会副委員長、情報ネットワーク実行部会委員長、看護研究交流センター特別研究部門(卒業生支援)部門長、学生委員会、自己点検・評価特別委員会作業部会、ハラスメント相談員

【外部資金獲得】

平成 25～27 年度 科学研究費補助金 萌芽研究 「22q11.2 欠失症候群をもつ人々のためのケアガイドの理論的枠組みの構築」， 分担 (150 千円).

【研究活動】

1. 原著論文

野村憲一，浅野友里奈，五十嵐悠里，石川弘都，小倉優一郎，金子愛，金田新 菜，家納美夏，鴨井未来，高野世有，土田美咲子，堀井れもん，エルダトン・サイモン，永吉雅人，森橋真一，馬場慎太郎，今田亜樹（2015）：助け合いの精神 を看護学生に実感させるゼミナール 妙高市長沢のお祭りに笛部隊として参加，看護実践の科学，40(12),64-68.（査読有）

2. その他の論文

M. Nagayoshi, S. Elderton, K. Sakakibara and H. Tamaki (2015):A Negotiation-rules Acquisition Method in AGV Transportation Systems by Reinforcement Learning, Proc. of World Engineering Conference and Convention 2015 (WECC2015), 1-5.(PS4-3-11(on DVD-ROM)),京都.(査読有)

Elderton Simon J.H. Kitamura Chiaki, Nakagomi Satoko, Nagayoshi Masato, Yamada Mai(2016):A Literature Review on 22q11.2 Deletion syndrome: The need for patient and family care management in Japan, 日本遺伝看護学会誌, 14(2), 53-63.（査読有）

3. 著書（視聴覚教材等を含む）

なし

4. 学会発表

Ivan Brown & Simon Elderton (2015.7.11) (CA data provision): "Horror Movies and Paranormal Experiences" CAN Kanto CA Data Session, Tokyo. (Invited)

永吉雅人，Elderton Simon，榊原一紀（2015.8.26）：AGV 経路計画における強化学習を用いた交渉ルールの一獲得法：最適解との比較，平成 27 年電気学会 電子・情報・システム部門大会，63-67 (TC3-4(on CD-ROM)).（長崎）.

北村千章，中込さと子，Elderton Simon，永吉雅人，山田真衣（2015.10.10）：22q11.2 欠失症候群に関する文献レビュー-22q11.2 欠失症候群を もつ人々のための長期的なマネジメントの示唆-，日本遺伝看護学会誌，14(1)，31.（熊本）.

永吉雅人，Elderton Simon，榊原一紀，玉置久（2015.11.20）：強化学習 による交渉ルール学習を用いた AGV 経路計画システム：自律分散方式に関する検討，計測自動制御学会 システム・情報部門 学術講演会(SSI2015)，1021-1025(SS15-1(on DVD-ROM)).（函館）.

永吉雅人，Elderton Simon，榊原一紀（2015.12.7）：強化学習による交渉 ルール学習を用いた自律分散型 AGV 経路計画システム：環境変化に対する性能，電気学会システム研究会，1-6 (ST-15-025).（上越）.

Sonomi Okazaki, Naoko Hara, Simon Elderton, Akihiro Hashimoto(2016.2.23) :

Analysing the Effect of Green Tea Leaf Treatment for Hand Contracture; randomized controlled trial, Manila 3rd International Conference on “Medical, Medicine and Health Sciences”, (Manila, Philippines).

5. その他の研究活動

土田美咲子，野村憲一，堀井れもん，エルダトン・サイモン，永吉雅人（2015.10.24）：
妙高市長沢地区の祭り「よみや」で用いられる明笛，平成 27 年度新潟県生活文化研究会年次大会．（新潟）．

Elderton Simon (2016.1.19): What SLA tells us ALTs can bring to English Education in Japan, 平成 27 年度新潟県外国語指導助手の指導力等向上研修，一般財団法人自治体国際化協会．

【学会等における活動】

- ・ JALT（全国語学教育学会）（所属SIG：PRAG,CALL,CUE, Bilingualism）会員
- ・ 日本生命倫理学会
- ・ 日本保健科学学会
- ・ 日本遺伝看護学会
- ・ Can Kanto Conversation Analysis Network
- ・ JETAA（JETプログラム同窓協会）（関東甲信越部）
- ・ 日本比較文化学会

【社会活動】

- ・ 上越教育大学非常勤講師

【学内教育活動】

学部：英語コミュニケーションⅠA、英語コミュニケーションⅠB、英語コミュニケーションⅡA、英語コミュニケーションⅡB、英語コミュニケーションⅢ、英語コミュニケーションⅣ、英語リーディングⅢ、英語リーディングⅣ、基礎ゼミナール(エッセイ・ライティング)、ふれあい実習

大学院：なし

【学内委員会等の活動】

学生委員会委員、国際交流委員会委員、ふれあい実習コーディネーター、看護研究交流センター特別研究部門（卒業生支援）、1 学年担任、

【外部資金獲得】

- ・ Brown Ivan B. (研究代表者) Elderton Simon (研究分担者) Creating a corpus of English spoken as a lingua franca between Japanese and cultural others: For the future purpose of developing authentic materials for conversation and intercultural

training, 基盤研究(C) 課題番号:26370659, 2014年度 - 2017年度

- ・北村千章(研究代表者) Elderton Simon (研究分担者)22 q 11.2欠失症候群を持つ人々のためのケアガイドの倫理的枠組みの構築, 挑戦的萌芽研究 課題番号:15K15859, 2015年度 - 2018年度
- ・境原三津夫(研究代表者) Elderton Simon (研究分担者) 性暴力被害者支援看護師を活用するための医療システムの構築, 基盤研究(C)課題番号: 15K11667, 2015年度-2018年度

関谷伸一

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

関谷伸一，時田幸之輔，田島木綿子・山田 格（平成 27 年 7 月 18 日）：Sihler 染色によるシワハイルカとコビレゴンドウ僧帽筋支配神経の筋内分布の観察，第 26 回日本セトロロジー研究会，秋田県八峰町

関谷伸一，太田帆南，丸山由香理，境原三津夫，高島葉子（平成 28 年 3 月 30 日）：ブタ胎児における横隔神経欠損を伴う横隔膜と肺の形成異常例，第 121 回日本解剖学会，郡山市

5. その他の研究活動

関谷伸一（平成 27 年 9 月 26 日）：看護大でのブタ胎児解剖，第 14 回コ・メディカル形態機能学会（埼玉医科大）

関谷伸一（平成 27 年 11 月 21 日）：霊長類腓腹神経の比較解剖学，第 3 回京都大学霊長類研究所共同利用研究会，犬山市

国立科学博物館にてキリンの解剖（平成 27 年 12 月 25～27 日）

関谷伸一（平成 28 年 2 月 12 日）イルカの僧帽筋とその支配神経，国立科学博物館 機能と系統セミナー，つくば市

関谷伸一（平成 28 年 3 月 27 日）イルカ頸部の局所解剖 ―腕神経叢と血管系の特徴―，第 36 回肉眼解剖学懇話会，郡山市

【学会等における活動】

日本解剖学会

日本海セトロロジー研究会

日本霊長類学会

人類形態科学研究会

コ・メディカル形態機能学会

American Association of Anatomists

【社会活動】

上越市博物館協議会委員

上越教育大学研究倫理審査委員会委員

【学内教育活動】

学部：生物学、形態機能学Ⅰ、形態機能学Ⅱ、基礎ゼミナール、ふれあい実習

大学院：なし

【学内委員会等の活動】

図書館長、図書委員会委員長、学生委員会副委員長、紀要委員会、自己点検・評価特別委員会、
情報ネットワーク特別委員会、外部評価特別委員会、法人ワーキング

【外部資金獲得】

平成 27 年度 京都大学霊長類研究所 共同利用研究 一般個人研究

研究テーマ：霊長類腓腹神経の比較解剖学的研究（課題番号：2015・B-64）

獲得研究費：70,000 円

境原 三津夫

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

境原三津夫, 櫻井信人, 坂上奈瑠美(2015.7): 精神障害者が関わる犯罪を防ぐには一起訴事例の判例分析からみえるもの一, 精神保健福祉学, 3(1), 58-67. (査読有)

菊地美帆, 境原三津夫(2016.1): 潮の満ち引きと分娩開始の関連性, 母性衛生, 56(4).652-657. (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

旗手俊彦, 長尾式子, 池田官司, 境原三津夫(2015.1): 新統合指針施行と医学・医療系大学倫理委員会の役割・課題, 第27回日本生命倫理学会年次大会. (千葉市).

関谷伸一, 太田帆南, 丸山由香理, 境原三津夫, 高島葉子(2016.3): ブタ胎児における横隔神経欠損を伴う横隔膜と肺の形成異常例, 第121回日本解剖学会総会・全国学術集会. (福島市).

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本産科婦人科学会・専門医
- ・日本周産期・新生児医学会
- ・日本補完代替医療学会・学識医
- ・日本フォレンジック看護学会
- ・日本児童青年精神医学会
- ・日本母性衛生学会
- ・日本セーフティプロモーション学会

【社会活動】

- ・金沢医科大学非常勤講師(2006.4～)
- ・医療法人和光会光病院非常勤医師 (地域医療支援活動) (2006～)
- ・県北医療センター高萩協同病院非常勤医師 (地域医療支援活動) (2007～)
- ・上越医師会子宮がん検診 (地域医療支援活動) (2013.11～)
- ・児童養護施設フランススコの町学習支援(2014.9～)
- ・看護研究交流センターどこでもカレッジ公開講座講師(2015.7.14)
- ・クリニカル・ラダー・レベル3 認証申請に係る CTG の読み方研修講師(2015.8.19)

【学内教育活動】

学部: 臨床病態学Ⅰ・Ⅱ、基礎ゼミナール、ふれあい実習、母性看護学Ⅱ、助産学Ⅱ

大学院: 病態生理学、フィジカルアセスメント、がん看護学特論Ⅲ、看護学領域特別研究

【学内委員会等の活動】

国際交流委員会委員長、倫理委員会、研究推進委員会、学校医、看護研究交流センター先駆的学習支援部門、衛生管理者

【外部資金獲得】

境原三津夫(研究代表者)：性暴力被害者支援看護師を活用するための医療システムの構築，基盤研究(C)課題番号: 15K11667, 2015 年度 - 2018 年度

野村 憲一

【研究活動】

1. 原著論文

野村憲一，岩野瑞葵，小林奈央，佐藤由奈，鈴木美雨，須戸舞花，高浪美玖，永井彩楓，中澤ちなみ，堀愛，宮下真由，永吉雅人，高島葉子（2015）：階段幅は妊婦の心拍数に影響をあたえるのか。妊婦体験ジャケットを用いたシミュレーション，看護実践の科学，40(11)，67-72.（査読有）

野村憲一，浅野友里奈，五十嵐悠里，石川弘都，小倉優一郎，金子 愛，金田新菜，家納美夏，鴨井未来，高野世有，土田美咲子，堀井れもん，エルダトン・サイモン，永吉雅人，森橋真一，馬場慎太郎，今田亜樹（2015）：助け合いの精神を看護学生に実感させるゼミナール ―妙高市長沢のお祭りに笛部隊として参加，看護実践の科学，40(12)，64-68.（査読有）

Ishida K, Nomura K, Kanda K (2015) : The Process through which Gynecologic Cancer Survivors Undergoing Chemotherapy Overcome Loss and Adopt New Values. The Japan Association of Comparative Culture,116,243-255.（査読有）

Nomura K (2015) : Variations of Traditional “Torioi” Songs in and around the Joetsu region. Studies in Comparative Culture, 119,227-235(査読有)

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

土田美咲子，野村憲一，堀井れもん，エルダトンサイモン，永吉雅人(2015.10.24)：妙高市長沢地区の祭り「よみや」で用いられている明笛，平成 27 年度新潟県生活文化研究会年次大会，新潟県立大学.

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学部：形態機能学Ⅰ・Ⅱ、臨床病理学Ⅰ・Ⅱ、臨床生化学、ふれあい実習、基礎ゼミナール、専門ゼミナール

大学院：臨床薬理学、病態生理学、フィジカルアセスメント、がん看護学特論Ⅲ、がん看護特別演習Ⅱ

【学内委員会等の活動】

入試・広報委員会委員長、教務委員会、FD 委員会、看護研究交流センター 特別研究部門（地域政策課題）

【外部資金獲得】

北野生涯教育振興会研究助成

課題：潜在看護師再就職のための卒業年次別支援プログラム

研究期間：2015-2017 年 交付金額：80 万円、代表者・分担者の別：代表者

岩永 喜久子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

篠田静代, 北田陽子, 今井裕子, 岩永 喜久子 (2016.2.20) : 通院放射線治療を受ける乳がん患者への
外来看護の現状と経時的変化, 第30回日本がん看護学会学術集会. (千葉市)

岩永 喜久子, 中村 美香 (2015.12.6) : 訪問看護ステーションにおける訪問看護評価尺度に関する研
究, 第35回日本看護科学学会学術集会. (広島市).

Kikuko Iwanaga (2015.10.16) : Innovations in Cancer Care Nursing in Japan, ENDA&WANS
CONGRESS 2015, Hanover.

岩永 喜久子, 中村 美香 (2015.10.11) : 看護専門外来を受診する患者の状況と看護サービスアウ
カム評価, 第17回日本看護医療学会学術集会. (福井市).

岩永 喜久子, 中村 美香 (2015.8.28) : 在宅看護を担う訪問看護師の特徴と実践活動内容, 第19回
日本看護管理学会学術集会. (郡山市).

今井 裕子, 中村 美香, 岩永 喜久子 (2015.8.23) : 倫理的課題における専門看護師の他職種への対
応内容, 一般社団法人日本看護研究学会第41回学術集会. (広島市).

杉田 歩美, 中村 美香, 塚越 聖子, 大谷忠広, 岩永 喜久子 (2015.8.22) : 学部教育で統合実習を
経験して入職した新人看護師の臨床における意識, 一般社団法人日本看護研究学会第41回学術集会
(広島市).

中村 美香, 今井 裕子, 杉田 歩美, 岩永 喜久子 (2015.8.22) : 急性期病院に勤務する看護師のエ
ラーの影響要因, 一般社団法人日本看護研究学会第41回学術集会. (広島市).

辻村 弘美, 岩永 喜久子 (2015.5.23) : 縮約版おだやかスケールにおける得点と認知症高齢者の基本
属性に関する考察-CDR,要介護度に焦点を当てて, 第16回日本認知症ケア学会大会. (札幌市)

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会 (代議委員)
- ・日本看護技術学会 (評議委員)

- ・日本看護研究学会
- ・日本看護教育学会
- ・日本看護管理学会
- ・北関東医学会
- ・日本看護医療学会
- ・ISNCC (International Society of Nurses Cancer Care)
- ・日本看護学会
- ・日本看護科学学会平成 27 年度表彰論文の査読
- ・日本看護科学学会第 35 回日本看護科学学会学術集会演題査読
- ・日本看護技術学会誌投稿論文査読 (2 回)

【社会活動】

- ・群馬大学大学院非常勤講師 (看護管理論, 看護教育論)
- ・福岡県医師会講演会講師 (平成 27 年度看護師卒後研修会)
- ・新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会講師 (平成 27 年度同講習会 ; 成人教育)
- ・独立行政法人日本学術振興会審査委員候補者

【学内教育活動】

学部 : 看護管理、専門ゼミナールⅠ、専門ゼミナールⅡ

大学院 : 看護管理学特論、看護管理学援助論Ⅰ、看護管理学援助論Ⅱ、看護管理学特別演習 (看護管理学研究)、看護教育学、看護学領域特別研究

【学内委員会等の活動】

倫理委員会委員長、入学小委員会委員長、教学小委員会、紀要委員会、博士後期課程開設検討委員会、法人ワーキング

【外部資金獲得】

- ・岩永 喜久子 (代表), 小板橋 喜久代他 : 看護実践変革モデルー看護専門外来システムの運用と評価に関する研究, 科学研究費 基盤 C (2012 年～2015 年)
- ・中村 美香 (代表), 岩永 喜久子 (分担者) : 看護職の医療事故に関する研究ーリスク判定用スクリーニングシートの開発ー, 科学研究費 挑戦的萌芽研究 (2014 年～2016 年)

山岸 まなほ

【研究活動】

1. 原著論文

山岸まなほ,青木雅子,國江慶子(2016): 病院の医師・看護師間と特別養護老人ホームの看護師・介護職間の協働 ―関東地方4都県の質問紙調査より―.武蔵野大学看護学部紀要, 9, 29-36. (査読有)

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

- ・ TeamSTEPPS ジャパン・アライアンス 教材作成(パンフレット、動画、PPT、配布資料)
ホームページ作成・更新・情報交換ページ管理(2014～)
- ・ Mayo clinic 看護部国際交流活動同窓会 ホームページ登録者・情報交換ページ管理
- ・ 海外研修 Mayo Clinic, University of Minnesota, 2016.2.5~10,医療安全部の業務と TeamSTEPPS
研修運営(2015～)
- ・ 海外研修 HoChiMin City Medicine and Pharmacy University 2016.3.14~21,学生間国際交流活動、
学生の病院実習指導

【学会等における活動】

- ・ 日本看護科学学会
- ・ Mayo clinic 看護部国際交流事業同窓会 事務局(2001～)
- ・ 日本看護管理学会
- ・ TeamSTEPPS ジャパン・アライアンス 運営委員(2014～)
- ・ 第19回日本看護管理学会インフォメーションエクスチェンジ企画
「チームで乗り越える力・生み出す力を発揮する、エビデンスに基づいたチームトレーニング―
TeamSTEPPS ジャパンの研修事業」、p153、2015(2015.8)

【社会活動】

- ・ 東京医療保健大学「看護研究」 非常勤講師(2014-2015.10)
- ・ 厚生連新潟地区「リーダーシップ研修」 講師(2015.7)

【学内教育活動】

学部：看護管理学、総合実習

大学院：看護管理学特論、看護管理学援助論Ⅰ・Ⅱ、看護管理学特別演習

【学内委員会等の活動】

国際交流委員会委員、入試・広報委員会委員、研究推進委員会委員、看護研究交流センター 地域課題
研究開発部門員

【外部資金獲得】

なし

水口 陽子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

酒井禎子, 小林綾子, 山田真衣, 水口陽子, 平澤則子, 永吉雅人, 杉田収 (2016) : 首都圏に在住する
勤労世代が求める上越・妙高地域における「メディカル・グリーン・ツーリズム」の要素, 新潟県立
看護大学紀要, 5, 10-14, (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

水口陽子 (2016.2.13) : 食に関するリテラシーのサプリメント摂取への影響, 第 22 回日本心身健康科
学会 学術集会, 東京.

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会
- ・ナイチンゲール研究学会
- ・日本心身健康科学会

【社会活動】

【学内教育活動】

学部 : 看護学概論, 看護技術論, 基礎看護技術演習Ⅰ, 基礎看護技術演習Ⅱ, 基礎看護学実習Ⅰ, 基礎
看護学実習Ⅱ, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習

大学院 : 看護学研究法, 看護理論, 基礎看護学援助論Ⅰ, 基礎看護学援助論Ⅱ, 基礎看護学特別演習,
フィジカルアセスメント

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター長, 教務委員会委員長, F D委員会, 自己点検・評価特別委員会

【外部資金獲得】

看護学生の生活調整能力育成のための食生活モニタリングを用いた学習教材の開発 基盤研究(C), 平成
25 年度～27 年度, 文部科学省科学研究費研究助成課題 (25463321)

岡村 典子

【研究活動】

1. 原著論文

岡村典子(2015)：感情知性理論を用いた看護基礎教育の展開による援助関係形成力の獲得プロセス，
お茶の水医学雑誌，63（2），p289-305.（査読有）

2. その他の論文

高松真美，儀藤裕香，岡村典子(2015)：A病院における看護・介護職の研究に対する認識と今後の支援
体制の検討，平成 26 年度新潟県立看護大学看護研究交流センター活動報告書，55-58. (査読無)

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・新潟県看護協会，上越地区「看護師職能」委員(2015.6～)
- ・新潟県立中央病院看護部教育アドバイザー(2014.11～)
- ・新潟県立中央病院看護部主催，スキルⅠ研修「看護理論にふれ自己の看護観を深める」講師(2015.6)
- ・静岡がんセンター看護部主催，「看護過程研修」講師(2015.6)
- ・新潟県厚生連主催，「看護教育研修Ⅲ リーダーシップ研修」講師(2015.7)
- ・新潟県看護協会，「平成 27 年度新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会」講師，「看護における人間関係論」担当(2015.8)
- ・新潟県立中央病院看護部主催，「パートナーシップ・マインド研修」講師(2015.12)
- ・新潟県地域医療推進機構・魚沼基幹病院，「リーダーシップ研修」講師(2015.12)
- ・新潟県社会福祉協議会，「プリセプター制度による新人教育について」講師（2016.3）

【学内教育活動】

学部：看護学概論、看護技術論、基礎看護学演習Ⅰ、基礎看護学演習Ⅱ、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、専門ゼミナールⅠ、専門ゼミナールⅡ、総合実習

大学院：看護理論、基礎看護学援助論Ⅰ、基礎看護学援助論Ⅱ、基礎看護学特別演習、看護コンサル

テーション論

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター 看護職学習支援部門長、国際交流委員会副委員長、実習委員会副委員長、入学小委員会、情報ネットワーク実行部会

【外部資金獲得】

岡村典子：中堅看護師の就業継続に向けた管理者向け支援習得プログラムとアウトカム指標の作成，
基盤研究(C)，平成25年度～平成27年度，文部科学省科学研究費研究助成課題(課題番号25463322)

川島 良子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学部：看護技術論、基礎看護技術演習Ⅰ・Ⅱ、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ、専門ゼミナールⅠ・Ⅱ

大学院：なし

【学内委員会等の活動】

入試・広報委員会、ハラスメント相談員、災害時看護支援特別委員会、看護研究交流センター 看護職学習支援部門

【外部資金獲得】

なし

谷内田 潤子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

山下 弘毅, 吉野 真樹, 佐々木 奈穂, 谷内田 潤子, 谷 長行, 佐藤 信昭 (2015.10.30) : 糖尿病合併
担癌患者のステロイド併用化学療法における血糖管理方法の提案. 第 53 回癌治療学会. (京都).

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学部 : 看護技術論、国際看護活動論、基礎看護技術演習 I・II、基礎看護学実習 I・II、総合実習、専
門ゼミナール I・II

大学院 : なし

【学内委員会等の活動】

国際交流委員会、FD 委員会、1 学年担任

【外部資金獲得】

谷内田潤子 : 新規糖尿病患者の未治療抑制に向けた糖尿病療養指導士による健診事後指導効果の検証
平成 27～29 年度, 若手 B, 文部科学省科学研究費研究助成課題 (課題番号 15K20709)

内藤 みほ

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

内藤みほ，横関泰江，小山知子，石田和子（2016,2,20）：化学療法を受けている乳がん術後患者が外見の変化を受容していく過程，第30回日本がん看護学会学術集会，千葉.

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会
- ・日本がん看護学会
- ・日本公衆衛生学会
- ・日本死の臨床研究会
- ・仏教看護ビハーラ学会
- ・日本臨床倫理学会
- ・新潟がん看護研究会
- ・日本緩和医療学会

その他：日本死の臨床研究会第23回関東甲信越支部大会（新潟） 企画委員

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学部：看護技術論、基礎看護技術演習Ⅰ、基礎看護技術演習Ⅱ、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、
総合実習

大学院：なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター 地域社会貢献部門、災害時看護支援特別委員会（委員）、保健指導員

【外部資金獲得】

なし

石田 和子

【研究活動】

1. 原著論文

Ishida K, Nomura K, Kanda K.(2015) : The Process through which Gynecologic Cancer Survivors Undergoing Chemotherapy Overcome Loss and Adopt New Values.The Japan Association of Comparative Culture,116,243-255. (査読有)

片野吉子, 佐藤充子, 石田和子 (2015) :精神看護学実習における看護学生の認知の変化. 日本比較文化研究, 117, 1-14. (査読有)

2. その他の論文

なし

3. 著書

石田和子 (2015) : 有害事象に対する症状マネジメント(神経障害, 皮膚障害, 脱毛, 下痢, 便秘), 神田清子, 二渡玉枝 編著, 成人看護技術 がん・ターミナルケア, 68 - 77, メヂカルフレンド社, 東京

石田和子 (2015) : 看護技術の実際(末梢神経障害におけるケア, 皮膚障害の予防, 爪のケア, 脱毛が始まる前のケア, 脱毛中のケア, 脱毛後のケア, 下痢に対する日常生活上の注意, 下痢に対する食事療法, 化学療法開始後の便秘予防), 神田清子, 二渡玉枝 編著, 成人看護技術 がん・ターミナルケア, 83-90, メヂカルフレンド社, 東京

4. 学会発表

片野吉子, 佐藤充子, 石田順子, 石田和子 (2015.8.22) : 精神科看護学実習における看護学生の認知の変化, 第 41 回日本看護研究学会. (広島).

内藤みほ, 横関泰江, 小山知子, 石田和子 (2016.2.20~21) : 化学療法を受けている乳がん術後患者が外見の変化を受容していく過程, 第 30 回日本がん看護学会 (千葉)

横関泰江, 石田和子 (2016.2.20~21) : K 病院で治療中の大腸がん患者の QOL 調査—身体症状、気分プロフィール、情緒的支援との関係—, 第 30 回日本がん看護学会 (千葉)

角田明美, 北田陽子, 荻原京子, 塚越聖子, 土屋智子, 中野良子, 野本悦子, 石田和子, 二渡玉枝, 神田清子 (2016.2.20~21) : A 県の「がん分野における質の高い看護師研修」事業の 5 年間の評価～看護管理者の評価～, 第 30 回日本がん看護学会 (千葉)

北田陽子, 角田明美, 荻原京子, 塚越聖子, 土屋智子, 中野良子, 野本悦子, 石田和子, 二渡玉枝, 神田清子 (2016.2.20~21) : A 県の「がん分野における質の高い看護師研修」事業の 5 年間の評価～研修修了生の評価～, 第 30 回日本がん看護学会 (千葉)

関谷めぐみ, 岡村利佳, 金井久枝, 金井紀江, 石田和子 (2016.2.20~21) : 肺がん患者における初回化学療法時の危機回避の実際, 第 30 回日本がん看護学会 (千葉)

金井久枝, 岡村利佳, 金井紀江, 関谷めぐみ, 石田和子 (2016.2.20~21) : 再発乳がん患者の危機状態に対する看護介入～フィンの危機理論を用いて～, 第 30 回日本がん看護学会 (千葉)

金井紀江、石田和子（2016.2.20~21）：スピリチュアルペインを抱える終末期患者に対する看護 - 村田理論を用いて - 、第 30 回日本がん看護学会（千葉）

山田希、渡邊真理子、石田和子（2016.2.20~21）：脳腫瘍診断直後に治療を開始した不安の強い患者への看護 - フィンクの危機理論を用いた精神面への援助 - 、第 30 回日本がん看護学会（千葉）

渡邊真理子、山田希、石田和子（2016.2.20~21）：突然のがん治療中止で危機に陥った家族が、自宅で穏やかな看取りを迎えた 1 事例～二重 ABC - X モデルを用いて支えた在宅療法～、第 30 回日本がん看護学会（千葉）

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本看護協会
- ・日本看護研究学会
- ・日本がん看護学会
- ・日本がん看護学会 評議員（2012～）
- ・日本がん看護学会 査読委員（2012～）
- ・日本看護科学学会
- ・日本看護診断学会
- ・日本造血幹細胞移植学会
- ・日本緩和医療学会
- ・北関東医学会
- ・群馬がん看護研究会
- ・群馬がん看護研究会理事（2007～）
- ・群馬緩和ケア研究会
- ・群馬緩和ケア研究会世話人（2007～）
- ・第 30 回日本がん看護学会企画委員（査読委員長 2015.2～2016,3）
- ・第 30 回がん看護学会 運営委員（2016. 2.19～2.21）
- ・日本死の臨床研究会（2015～）
- ・日本死の臨床研究会 第 23 回関東甲信越支部大会企画委員（2015.9～）

【社会活動】

- ・日本専門看護師協議会
- ・群馬専門看護師協議会
- ・群馬がん看護学会会員および理事
- ・本庄児玉看護専門学校（2 年）看護研究の基礎
- ・富山県看護協会主催 緩和ケア認定看護師教育課程 講師
- ・看護研究交流センター どこでもカレッジ公開講座
- ・第 1 回看護研究のテーマをみつけよう(2015.6.27 13:00～16:00)

- ・第2回さあはじめよう看護研究～研究計画書の書き方まで～(2015.9.5 13:00～16:00)
- ・第30回日本がん看護学会 千葉 パネルディスカッション座長
多様化する治療選択における意思決定支援～先を見据えた患者・家族への支援～

【学内教育活動】

学部：成人看護学Ⅰ・Ⅱ、成人看護学演習、成人看護学実習、専門ゼミナールⅠ、専門ゼミナールⅡ、総合実習、総合科目

大学院：がん看護学方法論－特論Ⅰ、がん看護学特論Ⅱ、がん看護特論Ⅲ、がん看護援助展開論Ⅰ、がん看護援助展開論Ⅱ、がん看護学特別演習Ⅰ、がん看護学特別演習Ⅱ、がん看護学特別演習Ⅲ、がん看護専門看護師課題研究、特別研究、がん看護専門看護師実習、看護学研究法

【学内委員会等の活動】

実習委員会委員長、教務委員会、教学小委員会、入学小委員会、看護研究交流センター 地域課題研究開発部門

【外部資金獲得】

石田和子（研究代表者）：化学療法に伴う吃逆の統合支援マネジメントモデルの開発と有用性の検討、科学研究費 基盤研究C（2014～）

神田清子（研究代表者）石田和子（研究分担者）他：化学療法に伴う末梢神経障害の尺度開発によるケアマネジメントの包括的評価、科学研究費 基盤研究B（2013～）

高柳 智子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

高柳智子(2015)：回復期脳血管疾患患者の移乗時見守り解除の意思決定方法とそれに対する看護師の伝え方，日本看護研究学会雑誌，38(2)，23-32. (査読有)

林美姫子，田原純一，園田理奈，藤岡祐飛，橋場理恵，高柳智子(2015)：心臓リハビリテーション導入患者の QOL 向上を目指して SF-36 v2 導入調査からみえてくる課題と展望，平成 26 年度新潟県立看護大学看護研究交流センター活動報告書，63-66. (査読無)

3. 著書

高柳智子(2015)：生活再構築のための支援技術 リスク管理，田村綾子 責任編集，新版 脳卒中看護実践マニュアル，373-375，メディカ出版，大阪.

高柳智子(2016)：障害のある人の生活支援のための看護技術 「動く」機能の障害と援助技術，石川ふみよ 栗生田友子 編著，看護実践のための根拠がわかる成人看護技術 リハビリテーション看護，139-159，メヂカルフレンド社，東京.

4. 学会発表

高柳智子(2015.10.16)：回復期にある脳血管疾患患者のベッド・車椅子間移乗における遠位見守りの使用実態，第 42 回日本脳神経看護研究学会. (札幌).

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

上越市情報公開・個人情報保護制度審議会委員

【学内教育活動】

学部：成人看護学Ⅰ、成人看護学Ⅱ、成人看護学演習、成人看護学実習、総合実習、専門ゼミナールⅠ、専門ゼミナールⅡ

大学院：看護学研究法、成人看護学特論、成人看護学援助論Ⅰ、成人看護学援助論Ⅱ、成人看護学特別演習、看護学領域特別研究

【学内委員会等の活動】

紀要委員会委員長、倫理委員会副委員長、教務委員会、教学小委員会、看護研究交流センター特別研究部門(地域政策課題)リーダー

【外部資金獲得】

高柳智子（研究代表者），科学研究費 基盤研究C「脳血管疾患患者の移乗時見守りから自立へのプロセスを支援するケアプロトコルの開発」，課題番号 26463347，（2014 年度－2017 年度）

酒井 禎子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

飯田明美, 山田佐智子, 大山奈緒美, 酒井禎子 (2015) : 上越地域における透析患者支援状況の実態調査: 介護支援専門員へのアンケート調査から, 平成 26 年度看護研究交流センター活動報告書, 79-82. (査読無)

酒井禎子, 小林綾子, 山田真衣, 水口陽子, 平澤則子, 永吉雅人, 杉田収 (2016) : 首都圏に在住する勤労世代が求める上越・妙高地域における「メディカル・グリーン・ツーリズム」の要素, 新潟県立看護大学紀要, 5, 10-14. (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本死の臨床研究会関東甲信越支部 役員
- ・聖路加看護学会 評議員
- ・日本緩和医療学会 教育・研修委員会 ELNEC-J WPG 員
- ・日本がん看護学会 代議員

【社会活動】

- ・医療の心を考える会パート3 世話人
- ・魚沼基幹病院看護部教育コーディネーター (2015.4～)
- ・新潟県立看護大学看護研究交流センターどこでもカレッジ公開講座 第4回 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム in 上越「エンド・オブ・ライフ・ケアに関わる看護師のための研修会」講師 (2015.7)
- ・金沢大学医科大学病院平成 27 年度 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム講師 (2015.8)
- ・平成 27 年度看護研究交流センター出前講座「看護職・介護職のための緩和ケア講座」上越老人福祉協会包括・居宅連絡会 (2015.8)
- ・新潟県上越地域振興局健康福祉環境部 平成 27 年度上越地域在宅医療連携協議会事業 事例集活用

研修「高齢者介護施設の End of Life care(ステップアップ編)ー看取り期の加算体制と栄養ケア・多職種連携を視点として」講師 (2015.8)

- ・第 14 回 ELNEC-J コアカリキュラム指導者養成プログラム講師 (2015.9)
- ・独立行政法人労働者健康福祉機構新潟労災病院看護部教育研修「研究計画書作成の基礎知識」講師 (2015.9)
- ・新潟県立中央病院緩和ケア研修会ファシリテーター (2015.10)
- ・2015 年度 ELNEC-J 指導者フォローアップ研修会ファシリテーター (2015.10)
- ・平成 27 年度看護研究交流センター出前講座「看護職・介護職のための緩和ケア講座」(株)リボーン (2015.10)
- ・済生会新潟第二病院主催 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム講師 (2015.11)
- ・訪問看護ステーション連絡会「しょうない」ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム講師 (2015.11)
- ・独立行政法人労働者健康福祉機構新潟労災病院看護部教育研修「研究計画発表会」講師 (2015.11)
- ・平成 27 年度看護研究交流センター出前講座「看護職・介護職のための緩和ケア講座」上越市社会福祉協議会吉川支所 (2015.11)
- ・平成 27 年度後期新潟大学公開講座 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム in 新潟大学講師 (2015.12)
- ・長岡中央総合病院がん看護ナース会第 1 回質の高い終末期ケアをまなぶ ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム講師 (平成 28 年 2 月)

【学内教育活動】

学部：成人看護学Ⅰ・Ⅱ，成人看護学演習，成人看護学実習，専門ゼミナールⅠ・Ⅱ，総合実習

大学院：がん看護学特論Ⅰ・Ⅱ，がん看護学特別演習Ⅰ・Ⅱ，がん治療看護介入演習Ⅰ・Ⅱ，がん看護援助展開論Ⅰ・Ⅱ，専門分野別課題実習（がん CNSⅠ・Ⅱ），専門分野別課題研究（がん CNS），看護学領域特別研究

【学内委員会等の活動】

学生委員会委員長，国家試験対策・就職委員会，実習委員会，看護研究交流センター 特別研究部門 (MGT)

【外部資金獲得】

酒井禎子：地方都市の高齢がん患者と家族の療養生活を支える「文化」を基盤とした看護モデル開発，平成 25～27 年度科学研究費補助金基盤研究 (C)

山田 正実

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

青木萩子、齋藤智子、岩佐有華、宇田優子、袖山悦子、杉本洋、飯吉令枝、山田正実、本間昭子、坪川トモ子、田辺生子、野上聡子、佐藤順子、榎田健、高野真弓、清水智子（2015.9.1）：看護系大学と自治体との連携による災害支援組織の発展過程～新潟県大学災害支援連携協議会活動のエコマップを用いた分析～、新潟大学保健学雑誌、12（1）、47-55.（査読有）

3. 著書

赤羽秀徳、阿部篤子、飯国紀一郎、他 14 名、山田正実（2016.2.1）：新看護学 10 成人看護 [2] 第 12 版第 4 刷、医学書院、東京

4. 学会発表

山田正実、長谷川雄司、坂田智佳子、吉澤千智、小原竜軌、飯吉令枝、平澤則子、坂井邦彦（2015.9.5）：COPD 患者の冬期の運動継続を中心とした自己管理への支援－試験的実践から一事例の報告、第 1 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会甲信越支部学術集会.（新潟市）.

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本看護学会会員
- ・日本家族看護学会会員
- ・日本家政学会家族関係学部会員
- ・看護質的統合法（N-KJ 法）研究会会員
- ・日本在宅ケア学会会員
- ・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会会員
- ・日本禁煙科学学会会員
- ・日本災害看護学会会員
- ・平成 27 年度新潟県看護協会看護学会 論文指導
- ・平成 27 年度新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会 講師

【社会活動】

新潟県立看護大学青年赤十字奉仕団事務局

新潟県大学災害支援連携協議会会長校代表

【学内教育活動】

学部：成人看護学Ⅰ、成人看護学Ⅱ、成人看護学演習、成人看護学実習、総合実習、専門ゼミナールⅠ
・Ⅱ、看護研究

大学院：なし

【学内委員会等の活動】

学生委員会、入試・広報委員会副委員長、災害時看護支援特別委員会委員長、情報ネットワーク特別委員会、看護研究交流センター 先駆的学習支援部門

【外部資金獲得】

科学研究費助成事業基盤研究 C（2013～2015）「COPD 患者と家族がともに取り組むセルフマネジメントを支援するプログラム」研究代表者

飯田 智恵

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

長澤聡子，堀越悦子，飯田智恵：静脈血栓塞栓症予防のための看護ケアに関する知識と看護実践の実態と課題，平成26年度新潟県立看護大学看護研究交流センター活動報告書，59-62，2015(査読無)

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本看護研究学会
- ・日本在宅ケア学会
- ・日本がん看護学会
- ・北関東医学会
- ・新潟看護ケア研究学会

【社会活動】

- ・呼吸器のフィジカルアセスメント（2015.9.12）：平成27年度新潟県立看護研究交流センター公開講座講師（120分）
- ・フィジカルアセスメント（2015.11.17）：平成27年度糸魚川総合病院看護部現任教育研修講師（60分）
- ・チーム医療と連携（2015.10.2）：平成27年度新潟県看護協会准看護師研修講師（講義120分，演習180分）
- ・第4回ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム「エンド・オブ・ライフ・ケアに関わる看護師のための研修会」（2015.7.18・19）：新潟県立看護大学看護研究交流センターどこでもカレッジ公開講座ファシリテーター
- ・冬の活動に見合った食事（2015.11.28）：食と健康の研究班（自主グループ）で開催した市民向け健康教室講師（講義20分、調理実習・グループ討議を含めて180分）

【学内教育活動】

学部：成人看護学Ⅰ、成人看護学Ⅱ、成人看護学演習、成人看護学実習、専門ゼミナールⅠ、専門ゼミナールⅡ、総合実習

大学院：なし

【学内委員会等の活動】

入試・広報委員会委員、FD 委員会副委員長、ハラスメント防止特別委員会、保健指導員、看護研究交流センター看護職学習支援部門副部門長、自己点検・評価特別委員会（教員評価作業部会）

【外部資金獲得】

なし

小林 綾子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

小林綾子（2015）：降雪地域に暮らす 2 型糖尿病患者の冬季の運動療法実行の程度と気象状況の関係，日本慢性看護学会誌，9（2），74-79.（査読有）

酒井禎子，小林綾子，山田真衣，水口陽子，平澤則子，永吉雅人，杉田収（2016）：首都圏に在住する勤労世代が求める上越・妙高地域における「メディカル・グリーン・ツーリズム」の要素，新潟県立看護大学紀要，5，10-14.（査読有）

3. 著書

なし

4. 学会発表

小林綾子（2015.7.4）：降雪地域に暮らす 2 型糖尿病患者の各季節における運動療法実行の程度，第 9 回日本慢性看護学会学術集会，大阪医科大学 看護学部.

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本糖尿病教育看護学会
- ・日本慢性看護学会員
- ・日本看護研究学
- ・日本看護科学学

【社会活動】

- ・看護大いきいきサロン講師「今日から始めよう糖尿病予防 毎日の食事再点検」（2015.6.18）
- ・出前講座講師「働き盛りの方へ 少し生活を見直してみませんか」（2015.8.28,10.9,12.1）
- ・新潟県立中央病院内科外来 糖尿病患者の看護相談の実施（毎月 1～2 回 4～8 時間）

【学内教育活動】

学部：成人看護学Ⅱ、成人看護学演習、成人看護学実習、総合実習、専門ゼミⅠ、専門ゼミⅡ

【学内委員会等の活動】

実習委員会、FD委員会、看護研究交流センター 特別研究部門(MGT)、保健指導員

【外部資金獲得】

なし

渡邊 千春

【研究活動】

1. 原著論文

渡邊千春 (2015) : 終末期がん患者への輸液療法に対する看護の実態調査 (第 1 報) —看護師の観察・アセスメントに焦点を当てて—, 新潟医学会雑誌, 129 (3) ,113-123. (査読有)

渡邊千春 (2015) : 終末期がん患者への輸液療法に対する看護の実態調査 (第 2 報) ,新潟医学会雑誌, 129 (5) ,263-272. (査読有)

2. その他の論文

関根愛実, 富山里佳, 藤田友里恵, 渡邊千春 (2015) : 混合病棟で勤務する看護師の終末期ケアに対する困難感とやりがい, 新潟県立看護大学看護研究交流センター活動報告書, 26, 71-74. (査読無)

渡邊千春, 栗和田直樹, 細貝智恵子, 石岡幸恵 (2016) : 医療型療養病床での看取りにおける看護師・介護福祉士の役割, Palliative Care Research, 11 (1) , 311-315. (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

渡邊千春, 石岡幸恵(2015.8.22) : 医療型療養病床に勤務している看護師・介護福祉士が捉えた看取りにおける困難感. 第 41 回日本看護研究学会 学術集会, (広島).

渡邊千春, 栗和田直樹, 細貝智恵子, 石岡幸恵(2015.9.3) : 医療型療養病床において看護師・介護福祉士が捉えた看取りにおける困難感. 第 46 回日本看護学会—慢性期看護—学術集会. (福島).

関根愛実, 富山里佳, 藤田友里恵, 渡邊千春(2015.9.3) : 混合病棟で勤務する看護師の終末期ケアに対する困難感とやりがい, 第 46 回日本看護学会—慢性期看護—学術集会. (福島).

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本看護研究学会
- ・日本がん看護学会
- ・日本緩和医療学会
- ・日本看護学教育学会
- ・日本医学看護学教育学会
- ・日本死の臨床研究会
- ・新潟医学会

【社会活動】

第4回 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム in 上越 (2015.7.18・19)

モジュール8「臨死期のケア」、モジュール9「高齢者のエンドオブライフケア」講義担当
ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム in 長岡中央総合病院 (2016.2.27・3.19)
モジュール8「臨死期のケア」、モジュール9「高齢者のエンドオブライフケア」講義担当

【学内教育活動】

学部：成人看護学Ⅱ、成人看護学演習、総合実習、専門ゼミナールⅠ・Ⅱ
大学院：専門分野別課題実習（がん CNSⅠ・Ⅱ）

【学内委員会等の活動】

入試・広報委員会委員、学生委員会委員、3学年担任

【外部資金獲得】

渡邊千春：平成26年～29年 科学研究費補助金若手B「EBPに基づいた終末期がん患者・家族への輸液療法意思決定支援ガイドの導入と評価」，課題番号26861898.

石原 千晶

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本看護研究学会
- ・日本がん看護学会
- ・第30回日本がん看護学会学術集会査読委員
- ・日本看護学教育学会
- ・日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会
- ・群馬がん看護研究会
- ・上越がんプロジェクト

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学部：成人看護学演習、成人看護学Ⅱ、成人看護学実習、総合実習、専門ゼミナールⅠ、
専門ゼミナールⅡ

【学内委員会等の活動】

国家試験対策・就職委員会、学生委員会、衛生委員会、看護研究交流センター 看護職学
習支援部門

【外部資金獲得】

なし

石岡 幸恵

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

渡邊千春,栗和田直樹,細貝智恵子,石岡幸恵 (2016) : 医療型療養病床での看取りにおける
看護師・介護福祉士の役割, Palliative Care Research, 11 (1) , 311-315. (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

渡邊千春、石岡幸恵(2015.8.22) : 医療型療養病床に勤務している看護師・介護福祉士
が捉えた看取りにおける困難感、第41回日本看護研究会 学術集会. (広島).

渡邊千春、栗和田直樹、細貝智恵子、石岡幸恵(2015.9.3) : 医療型療養病床において
看護師・介護福祉士が捉えた看取りにおける困難感、第46回日本看護学会—慢性期看護
—学術集会. (福島).

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本看護研究学会
- ・日本がん看護学会
- ・日本緩和医療学会
- ・日本臨床倫理学会
- ・日本乳がん看護研究会
- ・日本死の臨床研究会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学部：成人看護学演習、総合実習、専門ゼミナールⅠ

大学院：専門分野別課題実習（がんCNSⅠ・Ⅱ）

【学内委員会等の活動】

保健指導員、災害時看護支援特別委員会

【外部資金獲得】

なし

鬼形 充智

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

日本がん看護学会

【社会活動】

- ・日本救急医学会 ICLS インストラクター
- ・上越がんプロジェクト (JCAP)

【学内教育活動】

学部：成人看護学演習、成人看護学実習

大学院：なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター 看護職学習支援部門

【外部資金獲得】

なし

大崎 麻美

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

日本救急医学会 ICLS インストラクター

【学内教育活動】

学部：成人看護学演習、成人看護学実習、総合実習

大学院：なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター 先駆的学習支援部門

【外部資金獲得】

なし

大久保 明子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

大久保明子(2015)：子どもを亡くした遺族のケアを体験した看護者の認識と行動，死の臨床 38 (1)，154-159. (査読有)

大久保明子，北村千章，山田真衣，郷更織，高橋祥子 (2016)：医療的ケアが必要な在宅療養児を育てる母親が体験した困りごとへの対応の構造，日本小児看護学会誌，25 (1)，8-14. (査読有)

大久保明子 (2016)：小児のターミナルケアに携わる看護師の態度に関する文献検討，日本小児看護学会誌，25 (1)，94-100. (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

大久保明子，北村千章，山田真衣，郷更織，高橋祥子 (2015.7.25)：医療的ケアが必要な在宅療養児を育てる母親が体験した困りごと，日本小児看護学会第 25 回学術集会. (千葉).

大久保明子，北村千章，山田真衣，郷更織，高橋祥子 (2015.7.25)：医療的ケアが必要な在宅療養児を育てる母親の困りごとへの対応，日本小児看護学会第 25 回学術集会. (千葉).

大久保明子，小山千加代 (2015.11.15)：小児のターミナルケアに携わる看護師のケアに対する態度，第 21 回日本臨床死生学会大会. (東京).

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会
- ・日本小児看護学会
- ・日本小児保健学会
- ・日本小児がん看護学会
- ・日本がん看護学会
- ・日本看護教育学会
- ・日本死の臨床研究会
- ・日本家族看護学会
- ・臨床死生学会
- ・新潟小児看護研究会 副会長

【社会活動】

- ・上越市子どもの人権委員会委員
- ・子どもを亡くした遺族の会「わかばの会」主催者
- ・上越教育大学 非常勤講師
- ・新潟県看護協会 看護学会委員
- ・新潟県看護協会 看護学会論文指導
- ・看護研究交流センター出前講座（社会福祉法人）いくみ保育園 保護者向け研修会（2015.6.12）
- ・看護研究交流センター出前講座 聖公会 紅葉幼稚園 研修会 保護者向け研修会（2015.7.1）
- ・看護研究交流センター出前講座 春日謙信交流館 生涯学習（2015.7.6）
- ・看護研究交流センター出前講座 妙高市 ふきのとう 生涯学習（2015.10.21）
- ・看護研究交流センター出前講座 上越市立南本町小学校 看護体験（2015.10.25）
- ・上越市立能生中学校 キャリア教育「プロに学ぶ会」講師（2015.6.30）
- ・NPO 法人マミーズネット主催研修会（保護者向け）講師（2015.10.14）
- ・NPO 法人マミーズネット主催研修会（スタッフ向け）講師（2015.10.16）

【学内教育活動】

学部：小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学演習、小児看護学実習Ⅰ、小児看護学実習Ⅱ、専門ゼミナールⅠ、専門ゼミナールⅡ、総合実習、看護研究法

大学院：小児看護学特論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学援助論Ⅱ、小児看護学特別演習、看護学領域特別研究

【学内委員会等の活動】

教務委員会副委員長、入試・広報委員会副委員長、研究推進委員会副委員長、看護研究交流センター地域貢献部門、3 学年担任

【外部資金獲得】

なし

山田 真衣

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

大久保明子, 北村千章, 山田真衣, 郷更織, 高橋祥子 (2016) : 医療的ケアが必要な在宅療養児を育てる母親が体験した困りごとへの対応の構造, 日本小児看護学会誌, 25 (1), 8-14. (査読有)

酒井禎子, 小林綾子, 山田真衣, 水口陽子, 平澤則子, 永吉雅人, 杉田収 (2016) : 首都圏に在住する勤労世代が求める上越・妙高地域における「メディカル・グリーン・ツーリズム」の要素, 新潟県看護大学紀要, 5, 12-16. (査読有)

Elderton Simon J.H., Kitamura Chiaki, Nakagomi Satoko, Nagayoshi Masato, Yamada Mai (2016) : A Literature Review on 22q11.2 Deletion syndrome: The need for patient and family care management in Japan, 日本遺伝看護学会誌, 14(2), 53-63. (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

佐藤由紀子, 山田真衣, 小川洋平 (2015.6.20) : 小児1型糖尿病キャンプに参加した大学生ボランティアの健康増進に対する意識調査, 第62回日本小児保健協会 学術集会. (長崎).

大久保明子, 北村千章, 山田真衣, 郷更織, 高橋祥子 (2015.7.26) : 医療的ケアが必要な在宅療養児を育てる母親が体験した困りごと, 日本小児看護学会 第25回学術集会. (千葉).

大久保明子, 北村千章, 山田真衣, 郷更織, 高橋祥子 (2015.7.26) : 医療的ケアが必要な在宅療養児を育てる母親の困りごとへの対応, 日本小児看護学会 第25回学術集会. (千葉).

北村千章, 中込さと子, エルダトン サイモン, 永吉雅人, 山田真衣 (2015.10.10) : 22q11.2 欠失症候群に関する文献レビュー -22q11.2 欠失症候群をもつ人々のための長期的なマネジメントの示唆-, 日本遺伝看護学会第14回学術大会. (熊本).

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

・日本看護科学学会

- ・日本小児看護学会
- ・日本家族看護学会
- ・日本看護学教育学会
- ・日本小児保健協会
- ・新潟小児看護研究会
- ・日本福祉のまちづくり学会
- ・日本精神衛生学会
- ・日本遺伝看護学会
- ・新潟看護ケア研究学会
- ・新潟医学会

【社会活動】

- ・新潟小児看護研究会
- ・新潟県看護協会
- ・新潟看護ケア研究学会 第7回学術集会 示説 座長

【学内教育活動】

学部：小児看護学Ⅱ、小児看護学演習Ⅰ、小児看護学演習Ⅱ、小児看護学実習、専門ゼミナールⅠ、専門ゼミナールⅡ，総合実習

大学院：なし

【学内委員会等の活動】

実習委員会、図書委員会、国家試験対策・就職員会、看護研究交流センター 特別研究部門(MGT)

【外部資金獲得】

なし

北村 千章

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他論文

大久保明子, 北村 千章, 山田真衣, 高橋祥子 (2016): 医療的ケアが必要な在宅療養児を育てる母親が体験した困りごとへの対応の構造, 日本小児看護学会誌, 25 (1), 8-14. (査読有)

Elderton Simon J.H., Kitamura Chiaki, Nakagomi Satoko, Nagayoshi Masato, Yamada Mai (2016): A Literature Review on 22q11.2 Deletion syndrome: The need for patient and family care management in Japan, 日本遺伝看護学会誌, 14(2), 53-63. (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

北村千章, 西條竜也(2015.9.5): 重症先天性心疾患をもつ子どもが自立し親になるために必要な努力, 日本家族看護学会 第22回学術集会. (神奈川県).

北村千章, 中込さと子, Simon Elderton, 永吉雅人, 山田真衣(2015.10.10): 看護の視点からの 22q11.2 欠失症候群に関する文献レビューー日本における患者と家族へのケアマネジメントのための示唆ー, 日本遺伝看護学会第13回学術大会. (熊本県).

大久保明子, 北村千章, 山田真衣, 高橋祥子(2015.7.26): 医療的ケアが必要な在宅療養児を育てる母親が体験した困りごと, 日本小児看護学会 第25回学術大会. (東京都).

大久保明子, 北村千章, 山田真衣, 高橋祥子(2015.7.26): 医療的ケアが必要な在宅療養児を育てる母親が体験した困りごとへの対応, 日本小児看護学会 第25回学術大会. (東京都).

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会
- ・日本小児看護学会
- ・日本遺伝看護学会
- ・日本家族看護学会
- ・日本看護学教育学会
- ・新潟小児看護研究会 (役員)

【社会活動】

- ・ N P O 法人 親子の未来を支える会 理事
- ・ 22 HEART CLUB アドバイザー
- ・ 東京都心臓病の子どもを守る会 サマーキャンプ医療スタッフ
- ・ 全国心臓病者友の会 全国大会医療スタッフ
- ・ 地方独立行政法人長野県立病院機構 長野県立須坂病院 看護研究研修 講師
- ・ 長野県長野看護専門学校 非常勤講師，小児援助論
- ・ 医療的ケアの必要な子どもたちへのボランティアサポート
- ・ ファミリーサポートセンター主催講演会講師「赤ちゃんの遊びと育ち」
- ・ 中学生へのいのち教育講師
(長野県須坂市相森中学校，長野県小布施町小布施中学校、長野県飯綱町飯綱中学校)
- ・ 上越看護研究発表会実行委員
- ・ 新潟県立看護大学地域センター事業 平成 27 年度 出前講座
 - 1 家 S ハセガワ株式会社 第 1 回すまいと健康セミナー講師
「子どもにとっての良い住環境とは 子どもを育てるための住まいづくり」
(2015 年 10 月 3 日)
 - 2 糸魚川市上南地区公民館子育て講演会講師
「乳幼児期、学童期にできる性教育)」(2015 年 11 月 7 日)
 - 3 上越市立柿崎小学校講演会講師
「子どもには生きる力がある」(2015 年 11 月 19 日)
- ・ UNESCO-Week 特別講演会 講師
(長野県中野西高等学校)(2015 年 1 月 28 日)
- ・ 東京都心臓病の子どもを守る会主催
心臓病の子どもをもつ親のつどい 講師
「乳幼児から児童生徒、そして大人になるまでの心臓病児の子育て」
(2016 年 3 月 21 日)

【学内教育活動】

学部：小児看護学Ⅱ，小児看護学演習，小児看護学実習Ⅰ，小児看護学実習Ⅱ，
専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ，総合実習.

大学院：なし

【学内委員会等の活動】

- ・ 学生委員会
- ・ 研究推進委員会
- ・ 看護研究交流センター地域課題研究開発部門
- ・ 学年担任（2 学年）

【外部資金獲得】

北村千章（研究代表者）：科学研究費助成事業挑戦的萌芽研究（2015 年～2017 年）

「22 q 11. 2 欠失症候群をもつ人々のためのケアガイドの理論的枠組みの構築」

高橋 祥子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

大久保明子，北村千章，山田真衣，郷沙織，高橋祥子（2016）：医療的ケアが必要な在宅療養児を育てる母親が体験した困りごとへの対応の構造，日本小児看護学会誌，25（1），8-14.（査読有）

3. 著書

なし

4. 学会発表

大久保明子，北村千章，山田真衣，郷沙織，高橋祥子（2015.7.26）：医療的ケアが必要な在宅療養児を育てる母親が体験した困りごと，日本小児看護学会，東京ベイ幕張ホール
大久保明子，北村千章，山田真衣，郷沙織，高橋祥子（2015.7.26）：医療的ケアが必要な在宅療養児を育てる母親の困りごとへの対応，日本小児看護学会，東京ベイ幕張ホール

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

日本小児看護学会

【社会活動】

新潟小児看護研究会役員

【学内教育活動】

学部：小児看護学演習、小児看護学実習Ⅰ・Ⅱ、総合実習
大学院：なし

【学内委員会等の活動】

ハラスメント相談員

【外部資金獲得】

なし

加城 貴美子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

加城貴美子，有井武人，井上洋子(2015.11)：若石施術前後の幼児・学童の接地足蹠画像の形態学的分析・足部の比較と反射区との関連，日本若石 30 周年（研究発展の年） 日本若石マスターズの集い 記念誌，p.87-100，（査読無）

3. 著書

なし

4. 学会発表

加城貴美子，塚本博之，天谷まり子，釜中明(2015.9.18~20)：身長からみた幼児の土踏まず形成—接地足蹠画像の分析—，第 70 回日本体力医学学会学術集会．（和歌山市）

加城貴美子，天谷まり子，塚本博之(2015.10.6~7)：出産経験のある女性における足趾の状態と健康との関係，第 59 回日本母性衛生学会学術集会．（盛岡市）．

加城貴美子，塚本博之，釜中明(2015.11.21~22)：身長からみた幼児の土踏まず形成と毛委託額の比較—接地足蹠画像の分析—，第 29 回日本靴医学学会学術集会．（名古屋市）．

加城貴美子，天谷まり子(2015.12.5・6)：幼児の身長層と足の成長・発育，足趾の状態の比較検討，第 35 回日本看護科学学会学術集会．（広島市）．

加城貴美子，塚本博之，宮崎仁美，釜中明(2016.3.5~6)：生後月数による幼児の足趾の状態 2 第 14 回日本発育発達学会学術集会．（神戸市）．

宮崎仁美，塚本博之，加城貴美子，釜中明(2016.3.5~6)：靴・靴と下駄・草履を履いている幼児の足の発育の比較検討，第 14 回日本発育発達学会学術集会．（神戸市）．

5. その他の研究活動

- ・有度幼稚園で足の測定・調査，静岡県静岡市(2015.5.25・26)
- ・有度幼稚園で足の測定・調査，静岡県静岡市(2016.2.8)
- ・賤機保育園で足の測定・調査，静岡県静岡市(2016.2.9)
- ・有度幼稚園で足の測定・調査の結果報告会(2015.9.24)
- ・有度幼稚園で講演会：テーマ：元気で！ 長生きしたけりゃ 足のゆびをもどしなさい，(2015.9.25)

【学会等における活動】

- ・日本交流分析協会 評議員
- ・日本母性衛生学会 代議員 査読委員

【社会活動】

- ・上越教育委員会 生涯学習支援 非常勤講師
- ・一般社団法人 日本ほめる達人協会 新潟支部 顧問
- ・一般社団法人 日本ほめる達人協会 認定講師
- ・筆跡診断養成セミナー（初級，中級，上級）講師
- ・日本若石健康法マイスター 講師

【学内教育活動】

学部：母性看護論、母性看護学演習、母性看護学実習、専門ゼミナールⅠ、専門ゼミナール、総合実習

大学院：母性看護学特論、母性看護学援助論Ⅰ・Ⅱ、母性看護学特別演習、看護学領域別特別研究

【学内委員会等の活動】

教務委員会、教学小委員会副委員長、看護研究交流センター 特別研究部門(卒業生支援)

【外部資金獲得】

なし

中澤 紀代子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本母性衛生学会
- ・日本助産学会
- ・日本母性看護学会
- ・日本看護科学学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学部：母性看護学Ⅱ、母性看護学演習、母性看護学実習、専門ゼミナールⅠ、専門ゼミナールⅡ、総合実習

【学内委員会等の活動】

実習委員会、国家試験対策・就職委員会、看護研究交流センター 看護職学習支援部門

【外部資金獲得】

なし

天谷 まり子

【研究活動】

1. 原著論文

天谷まり子, 塚本博之(2016) : 大学生の糖尿病に関する意識と食生活における重要項目の探索, 静岡産業大学情報学部研究紀要, 第 18 号, 331-343 (査読有)

2. その他の論文

天谷まり子(2015) : 糖尿病をもつ女性の妊娠から出産にいたるまでの体験, 日本助産学会誌, 29 (5), 310-318 (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

加城貴美子, 塚本博之, 天谷まり子, 釜中明(2015.9.19) : 身長からみた幼児の土踏まず形成—接地足蹠画像の分析—, 第 70 回日本体力医学会大会. (和歌山県)

天谷まり子, 塚本博之(2015.10.17) : 看護大学生の妊娠糖尿病と食生活に関する意識調査, 第 56 回日本母性衛生学会学術集会. (岩手県).

加城貴美子, 天谷まり子, 塚本博之(2015.10.17) : 出産経験のある女性における足趾の状態と健康との関係, 第 56 回日本母性衛生学会学術集会. (岩手県).

天谷まり子(2015.12.5) : 看護大学生における食生活の意識調査—糖尿病に関する認識との関連について—, 第 35 回日本看護科学学会学術集会. (広島県).

加城貴美子, 天谷まり子(2015.12.5) : 幼児の身長層と足の成長・発育, 足趾の状態の比較検討, 第 35 回日本看護科学学会学術集会. (広島県).

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本助産学会
- ・日本母性衛生学会
- ・日本母性看護学会
- ・日本看護科学学会
- ・日本発育発達学会
- ・新潟母性衛生学会

【社会活動】

- ・本学看護研究交流センター事業、出前講座開設 (2 講座)

「助産師が伝えるお産の知識 ―緊急時、いざという時のために―」

「助産師が伝える妊娠糖尿病の知識 ―みんなで問題に取り組むために―」

- ・ALSO (Advanced Life Support In Obstetrics) -Japan 会員
- ・日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法普及事業新生児蘇生法修了認定

【学内教育活動】

学部：母性看護学Ⅱ、母性看護学演習、母性看護学実習、専門ゼミナールⅠ、専門ゼミナールⅡ、総合実習

大学院：なし

【学内委員会等の活動】

入試広報委員会、学生委員会、看護研究交流センター 地域社会貢献部門

【外部資金獲得】

なし

【研究活動】

1. 原著論文

野村憲一，岩野瑞葵，小林奈央，佐藤由奈，鈴木美雨，須戸舞花，高浪美玖，永井彩楓，中澤ちなみ，堀愛，宮下真由，永吉雅人，高島葉子(2015)：階段幅は妊婦の心拍数に影響を与えるのかー妊婦体験ジャケットを用いたシミュレーションー，看護実践の科学，40(11)，pp.67-72. (査読有)

2. その他の論文

坂詰朱美，塚田文枝，田中亜裕美，相羽綾子，古澤絵美，廣瀬洋美，柳澤麻衣，栗崎裕子，高島葉子，高塚麻由，永吉雅人(2015)：新生児の臍帯ケアをアルコール消毒から水分拭き取りに切り替えた効果，平成 26 年度看護研究交流センター活動報告書，pp.75-78. (査読無)

3. 著書

なし

4. 学会発表

坂詰朱美，塚田文枝，田中亜裕美，相羽綾子，古澤絵美，廣瀬洋美，柳澤麻衣，栗崎裕子，高島葉子，高塚麻由，永吉雅人(2015.11.6)：新生児の臍帯ケアをアルコール消毒から水分拭き取りに切り替えた効果，第 46 回日本看護学会ヘルスプロモーション，富山県民会館.

高島葉子，塚本康子(2016.3.19)：開業助産師が準備している助産事故発生時の初期対応計画，第 30 回日本助産学会学術集会，京都大学百周年記念時計台記念館.

関谷伸一，太田帆南，丸山由香理，境原三津夫，高島葉子(2016.3.28~30)：ブタ胎児における横隔神経欠損を伴う横隔膜と肺の形成異常例，第 121 回日本解剖学会総会・全国学術集会．郡山市ビックパレット.

5. その他の研究活動

高島葉子(2016.2.27)：A 無床助産所に沐浴を依頼した褥婦の出産施設退院後の母乳育児の実態，平成 27 年度新潟母乳育児をすすめる会 in 上越 研修会．新潟県立看護大学.

【学会等における活動】

- ・日本助産学会
- ・日本母性衛生学会
- ・日本思春期学会
- ・日本災害看護学会
- ・日本看護科学学会
- ・日本助産師教育協議会
- ・新潟県看護協会 助産師職能理事（委員長）（2014.5～）

【社会活動】

- ・上越市 子ども・子育て会議 会長 (2014.4～)
- ・上越教育大学 非常勤講師 (2014.4～)
- ・新潟母乳育児をすすめる会幹事
- ・母乳育児シンポジウム実行委員
- ・日本看護協会会員
- ・「にしかん助産師と語る会」発起人
- ・助産師と語る会北陸例会 講師「生と死に寄り添う時」 (2015.11.22)
- ・新潟日報 看護大通信 「更年期を幸年期」に (2015.10.4 号)
- ・看護研究交流センター どこでもカレッジ公開講座講師：自分の助産診断・技術学の再構築をしよう！(2015.5.23)

【学内教育活動】

学部：助産学Ⅰ、助産学Ⅱ、助産学実習、専門ゼミⅠ・Ⅱ、総合実習

大学院：なし

【学内委員会等の活動】

国家試験対策・就職委員会委員長、教務委員会、災害時看護支援特別委員会副委員長、FD 委員会、看護研究交流センター 特別研究部門(卒業生支援)リーダー

【外部資金獲得】

科学研究費補助金（基盤研究C）

高島葉子（研究代表者）：助産事故後の当事者間の信頼関係をつなぐ「分岐」を意識した初期対応モデルの構築，課題番号 25463492，（平成 25 年度－平成 27 年度）

高塚 麻由

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

坂詰朱美, 塚田文枝, 田中亜裕美, 相羽綾子, 古澤絵美, 廣瀬洋美, 柳沢麻衣, 栗崎裕子, 高島葉子, 高塚麻由, 永吉雅人(2015): 新生児の臍帯ケアをアルコール消毒から水分拭き取りに切り替えた効果, 平成 26 年度看護研究交流センター活動報告書.P75-78. (査読無)

3. 著書

なし

4. 学会発表

坂詰朱美, 塚田文枝, 田中亜裕美, 相羽綾子, 古澤絵美, 廣瀬洋美, 柳沢麻衣, 栗崎裕子, 高島葉子, 高塚麻由, 永吉雅人(2015.11.6): 新生児の臍帯ケアをアルコール消毒から水分拭き取りに切り替えた効果, 第 46 回日本看護学会ヘルスプロモーション. (富山県).

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本助産学会
- ・日本母性衛生学会
- ・日本フォレンジック看護学会
- ・特定非営利活動法人 女性の安全と健康のための支援教育センター

【社会活動】

- ・看護研究交流センターどこでもカレッジ公開講座. 助産外来・院内助産にも対応できる助産診断・技術学を再構築してみよう(妊娠・分娩期). 助産過程「分娩期」担当. 新潟県立看護大学多目的室(2015.5.23. 10:30~16:00)
- ・新潟県立看護大学助産学第3回新生児蘇生法Bコース講習会開催. 倉辻言講師. 新潟県立看護大学助産学講義室・実習室. (2015.9.26. 13:00~17:30)
- ・「こどものそだちと虐待を学ぶ研修会」企画・開催. (上越市). (2015.10.17)
- ・CAP・じょうえつ 賛助会員

【学内教育活動】

学部: 助産学Ⅰ、助産学実習、専門ゼミナールⅠ、専門ゼミナールⅡ、総合実習

大学院：なし

【学内委員会等の活動】

図書委員会、実習委員会、看護研究交流センター 看護職学習支援部門

【外部資金獲得】

なし

風間 みえ

【研究活動】

1. 原著論文

Kazama M, Maruyama K, Nakamura K.(2015) : Prevalence of Dysmenorrhea and Its Correlating Lifestyle Factors in Japanese Female Junior High School Students. The Tohoku Journal of Experimental Medicine. 236: P107-113

(日本の女子中学校における月経困難症の有病率とライフスタイル要因) (査読有)

風間みえ(2016): 中学生における生命と性に関する授業の効果, 新潟医学会雑誌, 130, 4, 237-243.(査読有)

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本母性衛生学会
- ・日本思春期学会
- ・日本性感染症学会

【社会活動】

- ・中学生に対する出張授業 小千谷市立小千谷中学校 2年生 (生命と性の健康教育)
- ・中学生に対する出張授業 小千谷市立南中学校 1年生・3年生 (生命と性の健康教育)
- ・学校法人めぐみ幼稚園 評議員

【学内教育活動】

学部：助産学Ⅰ、助産学演習、助産学実習、総合実習

大学院：なし

【学内委員会等の活動】

ハラスメント防止特別委員会、入試・広報委員会、看護研究交流センター 地域社会部門

【外部資金獲得】

なし

小泉 美佐子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

小泉美佐子, 柳澤美直代(2016): グループホームだからこそできる看取りケア・看取りにおける家族サポートの実際, 認知症介護, 17(1), 85-90. (査読無)

3. 著書

なし

4. 学会発表

竹内真奈美, 高橋律子, 西脇京子, 小泉美佐子(2015.6.14): 長期療養病棟における高齢患者の必要のない身体拘束を解除する取り組み, 日本老年看護学会第 20 回学術集会, (横浜)

5. その他の研究活動

日本老年泌尿器科学会研究助成, 根拠に基づく高齢者排尿誘導法ガイドラインの開発 (代表佐藤和佳子)

【学会等における活動】

- ・日本看護研究学会 (評議員)
- ・日本老年看護学会 (評議員)
- ・日本認知症ケア学会 (代議員・学会誌査読委員)
- ・日本老年社会学会 (学会誌査読委員)
- ・日本老年泌尿器科学会 (評議員)
- ・日本創傷・オストミー・失禁管理学会 (評議員)

【社会活動】

- ・上越市まち・ひと・しごと創生推進会議委員
- ・国立大学法人上越教育大学研究倫理審査委員会委員(2015.10～)
- ・一般社団法人日本看護系大学協議会 (社員)

【学内教育活動】

学部: 老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱ、老年看護学演習、老年看護学実習、専門ゼミナールⅠ・Ⅱ

大学院: 看護学研究法、看護コンサルテーション論、看護教育学、老年看護学特論Ⅰ、老年看護学特論Ⅱ、老年看護学特論Ⅲ、老年看護学特論Ⅳ、老年看護学特別演習Ⅰ、老年看護学特別演習Ⅱ、老年看護学特別演習Ⅲ、老年看護学実習Ⅰ、老年看護学実習Ⅱ、老年看護学実習Ⅲ、看護学領域別特別研究、専門分野別課題研究

【学内委員会等の活動】

教学小委員会委員長、ハラスメント防止特別委員会委員長、自己点検・評価特別委員会委員長、情報ネットワーク特別委員会、法人ワーキング、大学院博士後期課程開設検討委員会委員長

【外部資金獲得】

なし

原 等子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

高野久美子, 上原喜美子, 原等子, 他 4 名(2015.4): A 地域ケアスタッフにおける口腔ケアプランの現状, 日本看護学会論文集: 在宅看護, 45, 83-6. (査読有)

新保憲一, 黒沢千賀子, 原等子, 他 2 名(2015.4): 認知症高齢者の生活リズムを整える取り組み, 平成 26 年度看護研究交流センター活動報告書, 26, 83-6. (査読無)

原等子(2016.3): 「認知症の人と家族の会」と認知症医療, カレントセラピー, 24(3), 65-9. (査読無)

Akihiro HASHIMOTO, Sonomi OKAZAKI, Naoko HARA (2016): Analyzing the Effect of Green Tea Leaf Treatment for Hand Contracture, Book of Abstract and proceedings 45, Global Illuminators, Kuala Lumpur Malaysia, Editor Dr. Ahmed S. Phd. (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

上原喜美子, 原等子(2015.7.4-5): 慢性肺気腫患者のエンド・オブ・ライフを支える倫理調整, 日本慢性看護学会誌, 9(1), A78, 日本慢性看護学会第 9 回学術集会. (大阪)

吉原悦子, 丸山元子, 原等子, 他 1 名 (2015.6.12-14): 認知症グループホームにおける入居高齢者の排便ケア, 日本老年看護学会第 20 回学術集会抄録集, 169. (横浜)

角山裕美子, 原等子(2015.12.5-6): 外来化学療法を受ける高齢消化器がん患者のセルフケアに関する研究, 第 35 回日本看護科学学会学術集会. (広島)

角山裕美子, 原等子(2016.2.20-21): 外来化学療法を継続するために在宅サービスを受けている高齢がん患者のセルフケアに関する研究, 第 30 回日本がん看護学会学術集会. (千葉)

Sonomi Okazaki, Naoko Hara, Simon Elderton, Akihiro Hashimoto(2016.2.23): Analysing the Effect of Green Tea Leaf Treatment for Hand Contracture; randomized controlled trial, Manila 3rd International Conference on “Medical, Medicine and Health Sciences”, (Manila, Philippines).

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本看護協会 会員（1989～）〔日本看護学会論文集（在宅看護）査読委員（2014～）〕
- ・日本老年社会科学会（1999～）
- ・日本老年看護学会（2002～）〔論文査読委員(2009～)〕
- ・日本認知症ケア学会（2004～）〔評議員(2010～)，論文審査委員（2005～），1次試験問題作成委員（2007～），事例ジャーナル査読委員（2007～）〕
- ・日本口腔ケア学会 会員（2005～）〔評議員（2006～），編集委員および査読委員（2005～），用語委員会（2009～）〕
- ・日本老年歯学学会（2009～）
- ・日本静脈経腸栄養学会（2012～）
- ・日本慢性看護学会（2014～）

〔座長等〕

- ・第16回日本認知症ケア学会大会，【スキルアップセミナー1】認知症の人の口腔アセスメント 座長，札幌市(2015.5.23)
- ・第16回日本認知症ケア学会大会，ポスター発表 QOL・生活支援（6題） 座長，札幌市(2015.5.23)

〔査読〕

- ・日本老年看護学会誌 1本（2015.10）
- ・日本看護学会論文集（在宅看護） 6本（2015.11～2016.2）
- ・日本認知症ケア学会大会 4本（2016.2）
- ・日本老年看護学会学術集会 5本（2016.2）

【社会活動】

1. 学外活動

- ・上越市高齢者見守り支援ネットワーク委員会委員 副委員長（2011.4～）
- ・上越市地域包括支援センター協議会 副委員長（2013.4～）
- ・公益社団法人認知症の人と家族の会 B会員（2004～，2009～新潟支部世話人）
- ・公益社団法人認知症の人と家族の会 国際交流委員会委員（2013～）
- ・ADI（世界アルツハイマー協会）国際会議 2017事務局員（2015～）
- ・上越地域多職種連携有志勉強会 IPW-J運営支援（2014.10～）

2. 講演など

- ・看護研究交流センター出前講座 上越市第四地区民生委員・児童委員協議会，認知症の人と家族を地域で支えるには，上越市福祉交流プラザ(2015.5.21)
- ・特別養護老人ホームサンクスレルヒの森職員研修会，利用者の健康状態の観察チェックポイント～終末期～看取り，サンクスレルヒの森(2015.5.26)
- ・看護研究交流センターいきいきサロン，平成27年度第3回看護大いきいきサロン 認知症なんてこわくない 「ぼけ」でも安心して暮らせるまちづくり，新潟県立看護大学(2015.7.16)
- ・看護研究交流センター出前講座 社会福祉法人上越市社会福祉協議会，認知症の人と

家族を地域で支える，上越総合福祉センター(2015.8.10)

- ・平成 27 年度新潟県看護職員再就職支援講習会 新潟県・新潟県ナースセンター主催，摂食嚥下障害の理解，口腔ケア援助技術，新潟県立看護大学(2015.8.11)
- ・看護研究交流センター出前講座 株式会社リボーン職員研修会，認知症の理解とケア，株式会社リボーン(2015.9.10)
- ・厚生連けいなん総合病院職員研修会，認知症の人の思いを知るためのコミュニケーションー言葉より心に寄り添いひろがる認知症ケア，厚生連けいなん総合病院(2015.9.30)
- ・看護研究交流センターどこでもカレッジ公開講座 自分を活かし後輩を活かすプリセプター／パートナーシップのあり方 パネルディスカッションコーディネーターおよび話題提供「看護系大学における育て方」，新潟県立看護大学(2015.10.24)
- ・平成 27 年度上越地域キャラバンメイト養成研修会 上越地域振興局主催，Ⅱ－1 認知症を理解する，Ⅱ－2 認知症サポーターに伝えたいこと，上越地域振興局(2015.10.30)
- ・看護研究交流センター出前講座 株式会社リボーン職員研修会，高齢者の栄養，摂食にかかわる問題，株式会社リボーン(2015.11.13)
- ・消費生活講演会 認知症なんてこわくないー安心して暮らせるまちづくりー認知症の人と家族を地域で支える，上越市消費者協会・上越市，上越市市民プラザ第一会議室(2016.3.26)

【学内教育活動】

学部：老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱ、老年看護学演習、老年看護学実習、総合実習、専門ゼミナールⅠ・Ⅱ

大学院：フィジカルアセスメント、老年看護学特論Ⅰ、老年看護学特論Ⅱ、老年看護学特論Ⅲ、老年看護学特論Ⅳ、老年看護学特別演習Ⅰ、老年看護学特別演習Ⅱ、老年高度実践看護実習Ⅰ、老年高度実践看護実習Ⅱ、老年高度実践看護実習Ⅲ、看護学領域特別研究、専門分野別課題研究（老年 CNS）

【学内委員会等の活動】

教務委員会、入学小委員会、情報ネットワーク特別委員会、実習委員会(2015.10～)

【外部資金獲得】

なし

安藤 亮

【研究活動】

1. 原著論文

安藤亮, 内田陽子 (2015) : 地域在住高齢者の閉じこもりの有無及び背景条件による興味のある活動の違い, 北関東医学, 65(3), 211-220. (査読有)

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会
- ・日本老年看護学会
- ・日本地域看護学会
- ・日本認知症ケア学会
- ・日本老年泌尿器科学会
- ・北関東医学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学部：老年看護学Ⅱ、老年看護学演習、老年看護学実習、総合実習、専門ゼミナールⅠ・Ⅱ

【学内委員会等の活動】

入試・広報委員会委員、国家試験対策・就職委員会委員、看護研究交流センター 地域社会貢献部門員

【外部資金獲得】

なし

真貝 早悠里

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学部：老年看護学実習

大学院：なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター 地域社会貢献部門員

【外部資金獲得】

なし

大倉 由貴

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

新保憲一，黒沢千賀子，大倉由貴，原等子，加賀美亜矢子(2015.4)：認知症高齢者の生活リズムを整える取り組み，平成 26 年度看護研究交流センター活動報告書，26，83-6. (査読無)

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学部：老年看護学実習

大学院：なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター 看護職学習支援部門員

【外部資金獲得】

なし

田口玲子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・新潟看護ケア研究学会（評議員）
- ・日本精神保健看護学会
- ・日本看護科学学会
- ・日本看護研究学会
- ・日本カウンセリング学会
- ・日本カウンセリング学会 認定カウンセラー会
- ・日本心理臨床学会

【社会活動】

- ・新潟県精神保健福祉協会上越支部 平成 27 年度 評議員
- ・労働者健康福祉機構新潟労災病院 倫理委員会 平成 27 年度 委員
- ・労働者健康福祉機構新潟労災病院 医学系研究利益相反管理委員会 27 年度 委員
- ・さいがた医療センター 平成 27 年度 看護研究指導 講師
- ・「看護職のためのホリスティックケアセンター（NHC）」の活動

【学内教育活動】

学部:精神看護学Ⅰ、精神看護学Ⅱ、精神看護学演習、精神看護学実習、看護倫理、総合実習、専門ゼミナールⅠ、専門ゼミナールⅡ

大学院:精神看護学特論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱ、精神看護学特別演習、看護倫理特論、がん看護学特別演習Ⅰ、看護コンサルテーション論

【学内委員会等の活動】

倫理委員会、研究推進委員会、教務委員会、入学小委員会副委員長、教学小委員会

【外的資金獲得】

なし

後田 穰

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

安達寛人, 後田 穰, 棚橋ひろみ(2015.11.7): わが国最古の精神病院といわれる新潟県・鶴森狂疾院誕生の時代的背景について第一報—漢方と宗教の視点からの考察—, 第19回日本精神医学史学会大会. (東京都 新宿パークタワー).

棚橋ひろみ, 後田 穰, 安達寛人(2015.11.7): わが国最古の精神病院といわれる新潟県・鶴森狂疾院誕生の時代的背景について第二報—社会情勢と生活様式の変化の視点からの考察—, 第19回日本精神医学史学会大会. (東京都 新宿パークタワー).

5. その他の研究活動

個人研究調査活動 (在日外国人の精神衛生に関する研究)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

出前講義: 「看護職への道」新潟県立三条東高校 (2015.10.7)

研究指導: 看護研究交流センター地域課題研究 (平成28年3月提出分)

「精神科病院における精神科看護技術と職業経験評価に関する実態調査」佐々木美奈子他

【学内教育活動】

学部: 精神看護学Ⅱ、精神看護学演習、精神看護学実習、総合実習、専門ゼミナールⅠ、専門ゼミナールⅡ

大学院: なし

【学内委員会等の活動】

実習委員会、看護研究交流センター 先駆的学習支援部門、ハラスメント相談員

【外部資金獲得】

なし

伊藤 ひかる

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

精神看護学演習

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター 地域社会貢献部門

【外部資金獲得】

なし

安達 寛人

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

安達寛人，有我譲慶，荒牧鉄男，庄司寛子(2015.6.19)：急性期治療病棟における預かり物品のルール変更をめぐるスタッフの認識，日本精神科看護学術集会．(福島)．

安達寛人，後田穰，棚橋ひろみ(2015.11.7)：わが国最古の精神病院といわれる新潟県・鵜森狂疾院誕生の時代的背景について 第一報，第 19 日本精神医学史学会．(東京都)．
棚橋ひろみ，後田穰，安達寛人(2015.11.7)：わが国最古の精神病院といわれる新潟県・鵜森狂疾院誕生の時代的背景について 第二報，第 19 回日本精神医学史学会．(東京都)．

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・ 日本精神科看護協会
- ・ 日本精神医学史学会

【社会活動】

- ・ 高大連携事業ワーキンググループ（委員）
- ・ 上越かわらばん 2016 年 1 月掲載

【学内教育活動】

学部：精神看護学演習、精神看護学実習、総合実習

大学院：なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター 地域社会貢献部門

【外部資金獲得】

なし

平澤 則子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

酒井禎子, 小林綾子, 山田真衣, 水口陽子, 平澤則子, 永吉雅人, 杉田収 (2016) : 首都圏に在住する
勤労世代が求める上越・妙高地域における「メディカル・グリーン・ツーリズム」の要素, 新潟県立
看護大学紀要, (5)10-14 (査読有)

3. 著書

なし

4. 学会発表

細道奈穂子, 平澤則子 (2015.8.2) : 訪問看護師の問題解決能力を向上させるためのケースメソッド研
修の学習効果, 日本地域看護学会第 18 回学術集会. (横浜).

高野真弓, 飯吉令枝, 平澤則子 (2015.11.6) : 医療過疎地域の限界集落における高齢者の看取りの意
識調査, 第 74 回日本公衆衛生学会総会. (長崎).

久保野裕子, 平澤則子 (2015.10.24) 介護職の腰痛予防に関する支援ニーズ調査, 第 58 回日本産業衛
生学会北陸甲信越地方会総会. (新潟).

山田正実, 長谷川雄司, 坂田智佳子, 吉澤千智, 小原竜軌, 飯吉令枝, 平澤則子, 坂井邦彦 (2015.9.5)
: COPD 患者の冬期の運動継続を中心とした自己管理への支援ー試験的実践から一事例の報告, 第 1
回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会甲信越支部学術集会. (新潟市).

5. その他の研究活動

長岡市小国地域健康調査

【学会等における活動】

- ・ 日本地域看護学会
- ・ 日本在宅ケア学会
- ・ 日本公衆衛生学会
- ・ 日本難病看護学会
- ・ 日本災害看護学会
- ・ 日本福祉保健学会
- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本ルーラルナーシング学会

【社会活動】

- ・ NPO 法人新潟難病支援ネットワーク (理事、2012.4～)

- ・上越市男女共同参画審議会（専門委員、2013.7～、座長、2016.2.26～）
- ・上越地域在宅医療連携協議会多職種連携研修会等企画委員会オブザーバー（2014.8～）
- ・長岡市栃尾支所いきいき支援事業アドバイザー（2013.4～）
- ・長岡市小国支所いきいき支援事業アドバイザー（2014.4～）
- ・新潟県国保連合会保健事業・評価委員会（委員、2014.12～）
- ・高等教育コンソーシアムにいがた（常任委員、2015.4～）
- ・上越市健康福祉部指定管理者選定委員会（専門委員、2015.10～）
- ・上越市まち・ひと・しごと創生推進協議会 結婚・出産・子育て部会（部会長、2015.6～）
- ・新潟県看護職員確保対策検討会（委員、2015.8～）
- ・平成 28 年度新潟県看護教員養成講習会運営委員会（委員、2015.11～）
- ・新潟県保健師人材育成・評価委員会（座長、2016.3.18～）
- ・上越市介護保険運営協議会（副会長、2009.9～2015.10）
- ・上越市施設整備等検討委員会（座長、2010.7～2015.10）
- ・上越市総合計画審議会（委員、2014.4.15～2014.12）
- ・新潟県看護協会「看護の日」市民フォーラム講師及び座長：「これからの継続看護システム」（2015.5.12）
- ・平成 27 年度看護学生地域・在宅看護実習指導者研修会講師：「看護教育課程」（2015.10.1）
- ・平成 27 年度看護師・保健師職能合同研修会講師及びシンポジウム座長：「地域包括ケアシステムとは？ ～地域包括ケアが必要となる背景～」（2015.11.28）
- ・長岡市小国地域いきいき支援事業講演会講師及びパネルディスカッション座長：「より良い最期を迎えるために を考える」（2016.3.6）
- ・長岡市栃尾地域在宅医療講演会講師及びシンポジウム座長：「自宅で最期を迎える時代がやってくる ～これからの医療や介護について一緒に考えましょう～」（2016.3.12）

【学内教育活動】

学部：公衆衛生看護学Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅱ、在宅看護論演習、公衆衛生看護学演習、地域看護学実習
在宅看護論実習、専門ゼミナールⅠ・Ⅱ、総合実習、疫学

大学院：看護学研究法、地域看護学方法論、地域看護学援助展開論、学校保健・養護教育展開論、地域看護学特別演習Ⅰ・Ⅱ、看護学領域特別研究、専門分野別課題演習、専門分野別課題研究（CNS 該当）、老年看護学特論Ⅲ、看護コンサルテーション論

【学内委員会等の活動】

学部長、教務委員会委員、教学小委員会委員、FD 委員会:委員長、ハラスメント防止特別委員会委員、自己点検・評価特別委員会委員、外部評価特別委員会:委員、看護研究交流センター 先駆的学習支援部門長・特別研究部門（地域政策課題）部門員

【外部資金獲得】

平澤則子：在宅難病患者と家族のソーシャル・キャピタルと生活満足度に関する実証的研究，基盤研究（C），平成 24 年度～平成 28 年度，科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金補助金研究費），（課題番号 24593448）

飯吉 令枝

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

青木萩子，斎藤智子，岩佐有華，宇田優子，袖山悦子，杉本洋，飯吉令枝，山田正実他 8 名（2015）：
看護系大学と自治体との連携による災害支援組織の発展過程～新潟県大学災害支援連携協議会活動
のエコマップを用いた分析～，新潟大学保健学雑誌，12(1)，47-55. （査読有）

3. 著書

なし

4. 学会発表

高野真弓，飯吉令枝，平澤則子（2015.11.6）医療過疎地域の限界集落における高齢者の見取りの意識
調査，第 74 回日本公衆衛生学会. (長崎) .

山田正実，長谷川雄司，坂田智佳子，吉澤千智，小原竜軌，飯吉令枝，平澤則子，坂井邦彦（2015.9.5）
：COPD 患者の冬期の運動継続を中心とした自己管理への支援－試験的実践から一事例の報告，第 1
回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会甲信越支部学術集会. (新潟市).

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本地域看護学会
- ・日本公衆衛生学会
- ・日本看護科学学会
- ・日本在宅ケア学会
- ・聖路加看護学会
- ・日本ルーラルナーシング学会
- ・日本看護協会

【社会活動】

- ・妙高市介護保険運営協議会（2006.4～）
- ・上越市建築審査会(2008.4～)
- ・上越市開発審査会(2011.4～)
- ・上越市介護保険運営協議会(2015.10～)
- ・上越市介護保険施設整備等検討委員会(2015.10～)

【学内教育活動】

学部：公衆衛生看護学Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ、在宅看護論、公衆衛生看護学演習、在宅看護論演習、公衆衛生看護学実習、在宅看護論実習、総合実習、専門ゼミナールⅠ、専門ゼミナールⅡ

大学院：地域看護学方法論、地域看護学援助展開論、産業看護展開論、地域看護学特別演習、専門分野別課題実習（地域 CNS 該当）、老年看護学特論Ⅱ、老年看護学特論Ⅲ

【学内委員会等の活動】

教務委員会、災害時看護支援特別委員会、研究推進委員会委員長、看護研究交流センター 地域課題研究開発部門長・特別研究(地域政策課題)

【外部資金獲得】

飯吉令枝，井上智代：豪雪地域の高齢者が自立した栄養・食生活行動を維持するためのサポートシステムの構築，独立行政法人 日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 平成 27～ 29 年度(研究代表者)。

高林 知佳子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

高林知佳子, 坪倉繁美(2015.12.5): 介護をしながら働く女性看護師の仕事と家庭の葛藤の現状, 第35回日本看護科学学会学術集会. (広島)

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・ 日本公衆衛生学会会員
- ・ 日本看護科学学会会員
- ・ 日本地域看護学会会員
- ・ 日本健康教育学会会員
- ・ 日本生殖看護学会会員
- ・ 北陸公衆衛生学会会員

【社会活動】

- ・ 富山福祉短期大学非常勤講師 (2010.4～)
- ・ 妙高市こころと命のネットワーク会議委員 (2014.8～)
- ・ 上越市健康づくり推進協議会委員 (2015.4～)
- ・ 特定非営利法人クリエイティブアクト理事 (2015.6～)
- ・ 妙高市健康づくり推進協議会委員 (2015.7～)
- ・ 平成 27 年度高田ロータリークラブ例会講師「介護は突然やってくるー仕事と介護を両立していくためにー」 (2015.5.1)
- ・ 糸魚川地区公民館研修会講師「スローエイジングな生き方ー健やかな人生を送るための大切な習慣ー」 (2015.7.16)
- ・ 平成 27 年度中郷区老人クラブ連合会講座講師「健康長寿は高血圧予防からー今こそ見直そう！生活習慣ー」 (2015.7.28)
- ・ 平成 27 年度看護職員再就職支援講習会 (復職支援基礎コース) 講師「介護保険制度、医療と介護の連携」 (2015.8.12)
- ・ 西ヶ窪喜楽会研修会講座講師「スローエイジングな生き方ー健やかな人生を送るための大切な習慣ー」 (2015.8.26)
- ・ 平成 27 年度上越市老人クラブ連合会老人主張大会研修会講師「スローエイジングな生き方ー健やかな人生を送るための大切な習慣ー」 (2015.10.30)

- ・社会福祉法人きよさと福祉会研修会講師「スローエイジングな生き方ー健やかな人生を送るための大切な習慣ー」（2015.11.21）
- ・直江津地区公民館研修会講師「健康長寿は高血圧予防から～今こそ見直そう！生活習慣～」（2015.12.16）
- ・八千浦公民館研修会講師「スローエイジングな生き方ー健やかな人生を送るための大切な習慣ー」（2016.1.20）
- ・上越東農林事務所研修会講師「介護は突然やってくるー仕事と介護を両立していくためにー」（2016.2.29）
- ・上越地域消防事務組合研修会講師「健康長寿は高血圧予防から～今こそ見直そう！生活習慣～」（2016.3.17）
- ・関東信越税理士会高田支部研修会講師「介護は突然やってくるー仕事と介護を両立していくためにー」（2016.3.24）
- ・JCV 放送部 FM みょうこう「看護大だよりプチ講座 出前講座」（2016.3.18）
- ・寄稿「スローエイジングな生き方ー健やかな人生を送るための大切な習慣ー」,松籟 44 号,56-62（上越市老人クラブ連合会）

【学内教育活動】

学 部：公衆衛生看護学Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ、公衆衛生看護学演習、公衆衛生看護学実習、在宅看護論演習、在宅看護論実習、疫学、専門ゼミナールⅠ、専門ゼミナールⅡ、総合実習
 大学院：地域看護学方法論、地域看護援助展開論、地域看護学特別演習Ⅰ、地域看護学特別演習Ⅱ、地域看護学特別演習Ⅲ、専門分野別課題実習（地域 CNS）、専門分野別課題研究（地域 CNS）、看護学領域特別研究

【学内委員会等の活動】

国家試験対策・就職委員会副委員長、紀要委員会副委員長、倫理委員会、看護研究交流センター 地域社会貢献部門長、看護職学習支援部門員

【外部資金獲得】

高林知佳子（研究代表者），坪倉繁美：介護をしながら働く女性看護師のワーク・ファミリー・コンフリクトの規定要因と課題，文部科学省科学研究費基盤研究（C）（平成 26～28 年度）

井上 智代

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

伊藤直子，渡辺修一郎，森本耕平，神田直孝，大武聖 4，森田恵子，蛭名小百合，井上智代，平野浩彦
(2015.11.6)：呼吸筋トレーニングが入院高齢患者の嚥下機能へ及ぼす影響．日本公衆衛生学会総会．
(長崎)．

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本公衆衛生学会
- ・日本農村医学会
- ・日本保健福祉学会
- ・日本老年社会科学会
- ・日本民族衛生学会
- ・日本看護研究学会
- ・日本母性衛生学会
- ・日本在宅ケア学会
- ・日本地域看護学会
- ・日本災害看護学会

【社会活動】

- ・社会福祉法人大石福祉会 評議員
- ・長岡市男女平等センター ウィルながおか 専門相談員
- ・上越市食育推進会議委員
- ・柏崎市 保健師新任研修 講師
- ・新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会 講師
- ・新潟県 在宅看護研修会 講師

・信越化学工業（株）直江津工場 工場衛生大会 講師

【学内教育活動】

学部：公衆衛生看護学Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ、公衆衛生看護学演習、在宅看護論、在宅看護論演習、
公衆衛生看護学実習、在宅看護論実習、総合実習、専門ゼミナールⅠ・Ⅱ

大学院：なし

【学内委員会等の活動】

3年次編入生コーディネーター、実習委員会、自己点検・評価特別委員会作業部会、
看護研究交流センター地域課題研究開発部門・特別研究(地域政策課題)

【外部資金獲得】

井上智代（研究代表者），飯吉令枝：三井住友海上福祉財団 研究助成 平成 27 年度「農村部における高齢者の健康に資するソーシャル・キャピタル指標の開発」

野口 裕子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

なし

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本地域看護学会
- ・日本公衆衛生学会
- ・日本看護科学学会
- ・日本災害看護学会
- ・日本子どもの虐待防止学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学部：公衆衛生看護学Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ、公衆衛生看護学演習、在宅看護論演習、公衆衛生看護学
実習、在宅看護論実習、総合実習、専門ゼミナールⅠ・Ⅱ

大学院：なし

【学内委員会等の活動】

災害時看護支援特別委員会、図書委員会、衛生委員会、看護研究交流センター 先駆的学習支援部門

【外部資金獲得】

なし

久保野 裕子

【研究活動】

1. 原著論文

なし

2. その他の論文

なし

3. 著書

なし

4. 学会発表

久保野裕子，平澤則子（2015.10.24）介護職の腰痛予防に関する支援ニーズ調査，第 58 回日本産業衛生学会北陸甲信越地方会総会．（新潟）．

5. その他の研究活動

なし

【学会等における活動】

- ・日本公衆衛生学会
- ・日本産業衛生学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学部：公衆衛生看護学演習、公衆衛生看護学実習、在宅看護論演習、在宅看護論実習
大学院：なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター 地域社会貢献部門

【外部資金獲得】

久保野裕子，平澤則子：介護職の腰痛予防に関する支援ニーズ調査
平成 27 年度日本産業衛生学会北陸甲信越地方会研究助

各種委員会等の 活動報告

活動報告掲載順

ハラスメント防止特別委員会	9 5
自己点検・評価特別委員会	9 6
情報ネットワーク特別委員会	9 7
国際交流委員会	9 8
災害時看護支援特別委員会	1 0 0
倫理委員会	1 0 2
教務委員会	1 0 3
実習委員会	1 0 5
学生委員会	1 0 7
研究推進委員会	1 0 8
F D委員会	1 0 9
国家試験対策・就職委員会	1 1 1
入試・広報委員会	1 1 2
図書委員会	1 1 3
紀要委員会	1 1 5
教学小委員会	1 1 7
入学小委員会	1 2 0

平成 27 年度 ハラスメント防止特別委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎小泉美佐子、○品田英光、平澤則子、渡辺弘之、飯田智恵、風間みえ
事務局：大國祐子

(ハラスメント防止相談員)

永吉雅人、後田穰、川島良子、高橋祥子

2. 活動概要

(1)新入の学部生・大学院生に対し、大学におけるハラスメント防止と相談対応についてガイダンスを実施して、2年生以上はチラシを配布して周知を図った。

(2)学生支援機構主催の「心の問題と成長支援ワークショップーメンタルヘルス向上とカウンセリング」（8月6日・7日 東京国際交流館・プラザ平成）に永吉相談員が参加、ワークショップのプログラムにあった「ハラスメントへの対応」について、委員会及び教授会に報告した。

3. 次年度に向けた課題

(1)新入の学部生・大学院生の他、新入教職員に対しても大学におけるハラスメント防止と相談対応についてガイダンスする。

平成 27 年度 自己点検・評価委特別委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎小泉美佐子、○品田英光、関谷伸一、平澤則子、水口陽子

事務局：大國祐子

(教員評価作業グループ委員)

永吉雅人、飯田智恵、井上智代

2. 活動概要

(1) 教員評価の実施（平成 26 年度業績評価の試行）

5 月の教育研究審議会において「新潟県立看護大学における教員評価指針」が制定され、平成 26 年度業績に対して教員評価作業グループを設置、自己点検・評価特別委員に上記 3 名が加わり、長野県立看護大学の業績評価基準・入力シートを参考として本学の実態にあう評価基準及び入力シートを作成した。委員会メンバー及び作業グループメンバーが平成 26 年度業績をプレテストで入力して検討を重ね、7 月 15 日の教授会において自己申告シート入力の説明会を実施した。

入力は 10 月中に実施、評価対象となる教員全員（40 名）の入力を得た。集計作業は、外部スタッフに依頼して、①全体の合計点の平均、最高、最低、順位 ②各評価領域（教育、研究、社会貢献、大学運営）毎の合計点の平均、最高、最低、順位を集計した。12 月 2 日に委員会を開催して、評価シートの見直し等について意見交換した。集計結果については、12 月の教授会に報告した。

(2) 平成 27 年度自己点検評価報告書の編集

専任教員の活動業績、各種委員会の活動報告を編集した。2 月 2 日に委員会を開催し、提出のあった活動業績（27 年 4 月～12 月）を確認し、見出しやナンバリングをはじめ記載方法を統一できる様検討した。

3. 次年度に向けた課題

(1) 教員評価の本格実施

平成 27 年度の業績について評価を実施する。検討が必要な事項は下記の通りである。

- ①学会における活動は社会貢献活動になっているが研究活動ではないかとの意見があった。
- ②学長加点、さらに表彰の導入について学長の意見も伺い検討する。
- ③競争的資金獲得欄に「2 件以上の研究課題の研究代表者」「2 件以上の研究代表者と 1 件以上の分担研究者」を加える。
- ④授業科目担当の評価で、臨床実習指導のない助教・ある助教で区別していたが、実習指導がない助教はないので、講師以上と同じ基準で一律評価する。
- ⑤授業担当時間数は、実際に授業を担当した時間数を入力してもらうことを徹底する。

(2) 認証評価

大学機関別認証評価（平成 29 年度受審）に関わる点検・評価報告書の草案を認証評価 WG（仮称）と協力して作成する。

平成 27 年度 情報ネットワーク特別委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎橋本明浩、○永吉雅人、小泉美佐子、関谷伸一、原等子、藤田尚、山田正実、
品田英光、森橋真一、大國祐子

事務局：早川隆、（オブザーバー）秋山光希

2. 活動概要

(1) 情報管理者の指定

准教授 永吉雅人氏、副管理者として早川庶務係長を指名した。なお、秋山囑託員にはシステムの管理補助業務を遂行してもらうために、管理者権限を付与することとした。

(2) 情報科学システム更新後のPC機器等の活用

今年9月末に標記システムが更新される。それに伴い契約終了のPC（全170台）を大学が業者から引き上げ、大学全体で活用することを審議し、これを実行した。

(3) 情報機器届出シールの貼付

学内の情報機器の把握とセキュリティ確保のために情報機器届出シールを発行し、情報機器に貼付することとした。

(4) 学生用ソフトウェア媒体の購入

委員会予算で、図書館に置くソフトウェア媒体の購入を行うこととした。

3. 次年度に向けた課題

今日、情報環境が著しく変化するとともに、セキュリティ対策も高度かつ急を要する事

案が発生しているため、円滑かつ安全な情報環境の維持が図れる体制維持・整備が引き続き

大きな課題である。

平成 27 年度 国際交流委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎境原三津夫、○岡村典子、渡辺弘之、山岸まなほ、サイモン・エルダトン、
谷内田潤子

事務局：永井誉雄、関口詩織

2. 活動概要

(1) ホーチミン医科薬科大学看護・医療技術学部副学部長リー・ティン・フーン・ホア先生の講演会について

平成 27 年 5 月 12 日に、ホーチミン医科薬科大学のホア先生を招き「ベトナムの看護教育について」と題して、講演会を開催した。多くの参加者があり(学生 64 名、教員 31 名、職員 7 名、外部 10 名)、講演会の様子は、NHK おはようニュース・新潟日報・上越タイムズで報道された。また、講演の内容をエルダトン委員が英語および日本語の二か国語でまとめ、本学紀要 5 号に依頼原稿として掲載された。

(2) 国立クイホア病院との国際交流協定覚書締結について

平成 27 年 8 月 12 日に、小泉副学長と渡辺委員がクイホア病院を訪問し、クイホア病院と国際交流協定覚書(MOU)を締結した。この訪問に際し、本学学生 2 名(4 年生および 2 年生)が病院にて 3 日間の実習を行った。今回の訪問の様子を本学のホームページに掲載した。

(3) 「大学案内 2016」における記事掲載について

ホーチミン医科薬科大学およびクイホア病院との国際交流事業に関して「大学案内 2016」に活動内容が掲載された。

(4) クライストチャーチ工科大学との国際交流協定覚書締結に向けた準備について

平成 26 年 8 月 20 日にエルダトン委員がニュージーランドのクライストチャーチ工科大学(Christchurch Polytechnic Institute of Technology (CPIT))を訪問し、本学との交流について看護学部の教員と意見交換を行った。

(5) ベトナムホーチミン医科薬科大学訪問

平成 28 年 3 月 14 日から 22 日までの日程で、山岸委員、渡辺委員、学生 2 名(2 年生)がホーチミン医科薬科大学を訪問し、病院実習等の本格的な海外交流事業がスタートした(3 月 14-21 日の日程であったが、帰国時の天候不良のため 1 日延期になった)。

(6) 予算執行の状況について

①平成 27 年度予算

海外大学連携事業費 1,025,000 円

国際交流委員会運営費 50,400 円

②平成 27 年度予算執行額

海外大学連携事業費 1,025,000 円 (ホーチミン医科薬科大学等訪問旅費等)

国際交流委員会運営費 50,400 円 (同上)

3. 次年度に向けた課題

国際交流協定締結校の新規開拓が課題である。

平成 27 年度 災害時看護支援特別委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎山田正実、○高島葉子、飯吉令枝、川島良子、野口裕子、石岡幸恵、内藤みほ
事務局：早川隆、田村則宏

2. 活動概要

活動初年度であった。活動開始にあたり学長より委員会の設置目的の説明を受け、①災害時に看護大学として果たす役割の検討と、平常時の備えとして教育研究を行う、②災害関連での連携では、県や市などの行政、他大学や地域住民などの外部機関の窓口機能を果たす、を確認し、年度計画を立案、実施した。

(1) 研修会の開催

- ① 教職員対象：7 月 9 日「防災ゲームで学ぼう！災害時におけるリスクコミュニケーション」をテーマに実施した。参加者は 18 名で、アンケートでは「とても有意義だった」人が 11 名で、いろいろな意見が聞けて考え方が広がった、様々な視点や考えを持つ人の中で判断していく難しさを実感できた等の意見が出されていた。今後の研修会テーマとして、上越地域特有の災害、災害時の困難な状況についての事例や経験者からの支援方法等があげられており、次年度はこれらの意見を参考に研修会を企画していきたい。
- ② 学生対象：9 月 3 日「クロスロード（防災ゲーム）で学ぶ災害ボランティア」をテーマに実施した。災害等のボランティアの場面では、さまざまな判断を問われることがあり、学生が自らの考えを駆使して意思決定していくプロセスを学ぶことを目的とした。14 名の学生が参加し、学生達は自分とは違う意見を交換し合い、災害現場という状況下での判断の困難さと学年の壁を越えて話し合う意義を感じていた。

(2) 他団体との連携事業

- ① 新潟県大学支援連携協議会：今年度は会長校として 2 回の会議を開催した。協議会の地域支援では、各校の可能な支援内容一覧を改訂し、大学資源の活用を促す準備を整えた。
- ② 上越災害医療コーディネートチーム：会議 1 回、通信訓練、および研修会に参加した。
- ③ 避難所開設初動対応：7 月 25 日に上越市避難所開設訓練に参加した。9 月 14 日には避難所開設初動対応について教職員を対象にシミュレーション研修を行った。参加者は 35 名であった。参加者からは、実際に動いてみて確認ができたので良かったなどの感想があり、好評であった。また、本学の役割についても理解されたようであった。課題として当該委員が不在の際に対応できるか不安であるとの声があり、マニュアル化した。
- ④ 上越特別支援学校の緊急時対応・避難訓練アドバイザーおよび研修会講師として地域支援活動を行った。

(3) 災害時支援の必要物品の管理：委員会管理の物品点検・確認を行い、支援時物品の充実及び必要物品の検討を行った。災害掲示板前に設置されているリュックには、避難所開設時に速やかに支援が行えるようビブスや軍手等を収納した。また、学外支援用リュック 2 個、ライト付きヘルメット 5 個、ランタン等も新規購入し、それぞれ設置・保管した。

3. 次年度に向けた課題

学内の研修内容の充実とともに、参加への働きかけも積極的に行う。今期作成した「避難所開設支援初動対応マニュアル」を周知するとともに、シミュレーションの実施と評価から、また関連組織とも連携・調整しながら、さらに使いやすいマニュアルにしていく。

平成 27 年度 倫理委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎岩永喜久子、○高柳智子、境原三津夫、藤田尚、田口玲子、高林知佳子、
事務局：森橋真一、関口詩織

2. 活動概要

(1) 倫理審査について

38 件の倫理審査を行なった。

(2) 新体制による委員会構成委員と倫理審査について

平成 26 年 12 月 22 日に公布された「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を受けて、外部委員として、上越教育大学より 3 名の委員が新たに加わる体制となった。また、人を対象とする医学系研究をする場合の審査については、本学規定でもある「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に則り、審査を行った。

(3) 研究倫理に関する研修会について

東京大学医科学研究所の高島響子特任講師を招いて、平成 27 年 11 月 9 日に「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針の解説」と題して、研修会を開催した。

(4) 委員会活動について

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づく研究計画の倫理審査について、委員会所掌に係る委員会の開催や審査方法等について検討した。

(5) 予算の執行状況について

平成 27 年度予算額は 50,400 円であったが、平成 27 年度執行額は 0 円であった。

3. 次年度に向けた課題

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づく研究計画の倫理審査が、効果的で効率的に運用できるよう、他委員会とも連携して検討する。また、研究倫理に関する研修会を開催する。

平成 27 年度 教務委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎水口陽子、○大久保明子、平澤則子、加城貴美子、石田和子、高柳智子、
野村憲一、原等子、飯吉令枝、田口玲子、高島葉子、渡辺弘之

事務局：阿部信子

2. 活動概要

1) カリキュラムに関する事項

平成 28 年度のカリキュラム改正を目指して、看護実践能力の効果的な育成を目指したカリキュラムを編成した。平成 27 年 10 月にカリキュラムの変更の申請書類を取りまとめて文部科学省に提出し、平成 28 年 2 月に変更が承認された。

2) 履修・単位認定に関する事項

3 年次編入学生に既修得単位認定を行った。学年に応じた適切な履修計画が立てられるように教学ガイダンス計画に基づき 4 月と 10 月に履修指導を行った。

3) シラバスに関する事項

学生が自身の習得目標を具体的にイメージできるように、シラバスに保健師助産師看護師養成学校指定規則による位置づけ、本学教育課程の科目区分の 2 つを記載し、各科目の位置づけを明確にした。

4) 成績評価に関する事項

11 月と 3 月に履修状況、成績・単位取得状況を確認し、成績不良者について学年担任に修学指導を依頼した。GPA2.0 未満の学生は、前期 4 名（1 年生 3 名、3 年生 1 名）であった。後期 19 名（2 年生 19 名）であった。

5) 時間割に関する事項

平成 28 年度から変更する新カリキュラム（新 1 年生）への移行期であり、旧カリキュラム（2～4 年生）と混在し、調整が必要だった。特に、カリキュラム変更による開講年次の変更に伴い、非常勤講師の都合を考慮し 1・2 年次同時開講などの必要が生じたが、調整できた。

6) 看護研究発表会に関する事項

9 月 1 日から看護研究発表会に向けて担当者が準備を開始し、12 月 22 日に看護研究発表会を成功裡に終えることができた。1～2 年生の参加が講義との重なり少なかったが、3 年生は 9 割以上の参加があった。院生にもプログラムを配布したことで例年より参加者が多く目立たず活発な意見交換があった。前年度に比べ外部参加者が少なく、今後は関係した各施設に学生が直接コメントを依頼する等の広報を工夫する必要がある。共通基礎系の看護研究担当教員には、担当者から個別に説明を行いスムーズに運営できた。また、ポスターは印刷用紙の統一・購入の一元化により問題なく作製することができた。

7) 専門ゼミナールの実施に関する事項

研究フィールドの希望とりまとめを行い、希望者の多い施設は担当委員が一括して依頼した。その際、先方に多大な手間を要する研究計画等については担当教員に伝達し調

整を行った。本学学生を対象とした調査についても、学生の負担を考慮して対象学年を分散する等の調整を行った。これらについては、今後も検討および調整が必要である。

今年度から専門ゼミナールⅠ・Ⅱは全学の教員で担当することとし、看護系教員に加え共通基礎系で学生との双方合意が得られ学生の研究テーマと合致した教員が担当した。また、3年次後期に次年度の専門ゼミナール希望調査を実施し各科目群への学生の振り分けを行った。

3. 次年度に向けた課題

- ・新カリキュラムの運用が円滑に進むよう努めていく。
- ・専門ゼミナールのフィールド希望をとりまとめ、施設側の過負担とならないよう配慮して依頼していくことを継続する。
- ・本学学生に対する研究についても、学生の負担を考慮して調整していくことが必要である。

平成 27 年度 実習委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎石田和子、原等子、酒井禎子、○岡村典子、後田穰、小林綾子、井上智代、
山田真衣、中澤紀代子、高塚麻由

事務局：阿部信子

2. 活動概要

(臨床実習施設の選定、交渉及び調整に関する事項)

1) 実習懇談会 (担当：酒井、山田)

平成 27 年 5 月 27 日 (水) 15:00～17:00、実習施設 12 施設 58 名、大学 42 名、計 100 名の出席により実施した。例年通りのプログラムで、臨床講師への委嘱状交付、昨年度の実習総括や今年度の実習計画の説明を行った後、領域別看護学実習懇談を行った。

2) 実習指導者研修会 (担当：酒井、中澤)

平成 27 年 5 月 27 日 (水) 13:30～14:50 に「看護過程と実習記録－実習における指導のポイント」をテーマとして実施し、実習指導者 47 名、教員 34 名、計 81 名が参加した。研修会では、学内の 3 名の教員が学内での看護過程の学習と実習記録について報告した後、実習指導者と教員での意見交換を行った。アンケートでは回答者の約 7 割が「非常によかった」「よかった」と評価しており、感想からは、実習記録や学内での学習内容がわかり、実習指導に参考になったとの意見が聞かれた。

3) 領域別実習配置表 (担当：後田、中澤)

後期の領域別実習に先立ち、平成 27 年度 3 年次看護学実習配置表を作成するとともに、平成 28 年度の年間実習計画を検討した。平成 28 年度の領域別実習の開始日は、老年看護学実習は 8 月 29 (月) とし、その他の領域別実習は 9 月 5 日 (月) とした。

4) 総合実習 (担当：井上、小林、(加賀美))

今年度より総合実習は完全パッケージ化にて実施。学生が希望する領域にてほぼ実習可能であったが、一部の学生が (2 名) 希望以外の領域で実習せざるを得ない状況であった。

また、平成 28 年度総合実習にむけ、学生に 2 月 4 日総合実習オリエンテーションを実施した。昨年と同様、希望調査票を 2 月 19 日〆切 (メール添付にて提出)、3 月 4 日に発表することとした。

(臨床実習の実施方法に関する事項)

1) 実習オリエンテーション (担当：後田、中澤)

平成 27 年 7 月 31 日 (金) 13:00～14:30 に、3 年次領域別実習オリエンテーションを実施した。実習の概要や領域別のオリエンテーションの他、看護技術到達度リストの使用方法についても説明を行った。また、1.2 年次の基礎看護学実習前には、情報倫理に関するオリエンテーションを実施した。

2) 技術到達度リスト (担当：小林、山田、井上、岡村、(加賀美))

今年度の到達度リストの見直しでは、演習・実習で行った看護技術について記載することとし、1 年次のふれあい実習から配布し、全学年が使用した。集計は 4 年生の実習

終了後に行い、集計結果は掲示で学生に知らせた。到達度リストへの記載不足が課題となり、3年生実習終了後に回収し、記載不足の学生には記載を促した。

(臨床実習要項に関する事項)

1) 実習要項 (担当：高塚、加賀美 (9月まで)、原 (10月から))

5月27日の実習懇談会に合わせ、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ、成人看護学実習、母性看護学実習、小児看護学実習Ⅰ・Ⅱ、老年看護学実習、精神看護学実習の実習要項を各250部作成した。臨地実習の概要について、感染事故対応に関する記載を10月に改訂し学生、実習施設および教員に配布した。また、平成28年度版臨時実習の概要について、改正カリキュラムに伴う事項の改訂、個人情報保護に関する記載および成績評価の考え方について一部修正のうえ250部作成予定である。

(その他)

1) 継燈式 (担当：岡村、小林、高塚)

平成27年7月1日(水)13:00~14:10、新潟県立看護大学第1・2ホールにおいて平成27年度継燈式を実施した。2年次生94名が中心になって挙行し、保護者131名(概数)、来賓・教職員25名が出席した。現在、次年度開催に向けて1年生の実行委員11名が準備を進めている。

2) ユニフォーム (担当：岡村、井上)

平成26年度と同様に吉崎商店に依頼し、入学時オリエンテーション期間(4月8日)に採寸を実施した。採寸日に合わせカーディガン、ナースシューズの注文も行った。作成は5月連休明けからにしてもらうよう依頼し、学生への販売は7月14日に行った。うち1名、当日に支払いが間に合わず、後日支払いとなった。また、当日は4~5人程度のユニフォームが、海外で製造しているために間に合わず、後日、教員より本人へ渡したほか、ネーム間違いもあり、返品交換にて対応した。また、ユニフォームの生乾き臭が気になるという意見があり、今後検討していくこととする。

3) 実習物品購入 (担当：後田)

今年度の実習物品購入予算は前年度に比較すると少なく10万円程度となった。実習病院配布分の消耗物品購入は出来たものの、例年のような領域ごとへの配分は出来なかった。実習病院ごとに配分した主な物品はハンドソープ、イソジンガーグル、酒精綿、ペーパータオルであった。

3. 次年度に向けた課題

- 1) 総合実習希望調査を実施しているが、今年度は2名の学生が希望に沿うことが出来なかった。全学生が希望に沿うよう総合実習の配属を行うことが課題である。
- 2) 冬季の実習用ユニホームの洗濯による生乾き臭が気になるとの報告があり、洗濯方法や素材などが課題である。
- 3) 技術チェックリストを作成し実習に活用しているが、チェック忘れなど課題が残されている。チェックリストの活用方法が課題である。

平成 27 年度 学生委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎酒井禎子、○関谷伸一、山田正実、永吉雅人、エルダトン サイモン、渡邊千春、北村千章、天谷まり子、石岡幸恵、石原千晶

事務局：本山宏一

2. 活動概要

(1) 学生自治会活動支援（担当：関谷、山田）

主な自治会活動として、4/25（土）球技大会、5/27（水）自治会総会、10/31（土）桜蓮祭を実施した。桜蓮祭は、「Harmony～地域と大学の調和」をテーマとし、来場者約 660 名であった。全国公立大学学生大会（10/11-12 日：名古屋市）に 2 年生 2 名が参加した他、高等教育コンソーシアムにいがた看護系大学タスクフォースの活動として、「リレー・フォー・ライフ・ジャパン」（9/21）に“ひよっこナース”2～4 年生 4 名の学生が参加した。

(2) 学生との意見交換会（担当：永吉、天谷、酒井）

1/8（金）16:10～17:45 に、学生 32 名、大学教職員 22 名が出席して行い、議事のまとめを教職員に配布、学生には掲示した。

(3) 学生生活実態調査（担当：永吉、北村、天谷）

10 月に調査を行い、集計結果を学内 HP に掲載するとともに、ポスター掲示や教授会での資料配布により学生の生活指導・学習環境改善の資料として活用した。

(4) 学生の地域交流支援（担当：エルダトン、北村、渡邊、石岡）

「高田祇園まつり民謡流し」（7/23）、「こども仕事塾」（8/22）に参加した。

(5) 学生のボランティア活動支援（担当：エルダトン、北村、渡邊、石岡）

25 件のボランティア募集があり、掲示での呼びかけを行った。学外活動届より把握した学生参加のボランティア活動は 13 件、参加学生数は延べ 56 名（3 月 2 日現在）であった。

(6) 新入生オリエンテーション（担当：山田、北村、天谷、エルダトン、渡邊、石原）

4/10（金）～11（土）に学内・アスティくろひめで実施した。新入生 97 名、上級生 11 名（2 日目のみ）、教職員 17 名が参加した。

(7) 教育環境の向上他（担当：関谷、石岡、酒井）

意見交換会で、オフィスアワーの活用促進やピアサポートに関して学生の意見を聴取した。また、学生の希望により自習室の開放時間が 20 時 30 分から 21 時 30 分に延長された。

(8) その他

- ・計 216 名の学生が奨学金を利用。成績不良者に対して担任より個別指導を行った。
- ・学年担任・学校医・保健指導員・カウンセラーとの学生相談関係者会議を 2 回実施。「学生相談室における緊急対応時の連絡経路」を作成した。
- ・成績優秀賞 2 名の推薦を行った。

3. 次年度に向けた課題

オフィスアワー活用促進に向けた方策や自治会との連携によるピアサポートの検討、学生の防犯意識・危機回避意識のガイダンスを強化することが課題である。

平成 27 年度 研究推進委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎飯吉令枝、○大久保明子、境原三津夫、田口玲子、山岸まなほ、徐淑子、
北村 千章

事務局：秋本聖子

2. 活動概要

(1) 研修会の開催について

教職員と大学院生を対象に全 2 回の研修会を開催した。

①研究費獲得のコツ

教員を対象とし、7 月 29 日 16:30～17:30 に中込さと子教授（山梨大学）を講師として研修会を実施し、獲得の経過、萌芽・若手・基盤の申請書例を用いて採択されるコツなどが説明された。若手の教員を中心に 26 名が参加し、アンケート回答者 20 名中 19 名が今後研究費の獲得に向けて行かせると思うと回答した。

②人を対象とする研究における倫理的配慮 —「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に焦点をあてて—

倫理委員会と合同で、教職員、大学院生を対象とし、11 月 9 日 17:30～19:00 に高島響子特任研究員（東京大学）を講師として上記のテーマで研修会を実施した。

また当日参加できなかった教員、院生を対象に平成 28 年 1 月 19 日 16:30～18:00 に DVD による研修会を実施した。人を対象とする研究に携わる教員は育児休暇中の教員と都合のつかなかった教員 5 名を除き全員が参加し、研修会受講証が発行された。

(2) 科学研究費などの外部資金に関する情報提供と応募情報

①科学研究費の説明会

9 月 10 日に学習院大学で開催された科学研究費の説明会に、境原委員が出席し、9 月 30 日 15:00～16:30 に学内での説明会を実施した。説明会には教職員 40 名が参加した。応募件数は 34 件であった。【参考】昨年 33 件

②科学研究費申請にあたっての相談

説明会時に随時相談窓口を設けることを伝えた。委員に数名の相談があった。

③科研費以外の外部資金の情報提供

科研費以外の研究助成公募の案内があった 31 件をメール配信し、教員に情報提供した。

(3) 研究をすすめていく上での課題や環境整備等についての話し合い

3 月 1 日 13:00～14:00 に上記のテーマで話し合いを行った。参加者は 25 名（委員含む）であった。

(4) 予算の執行

平成 27 年度執行額 計 49,810 円 7 月 29 日の講師 講師料＋旅費

3. 次年度に向けた課題

・論文件数が昨年に比べて 10 件以上減っている。また、学会発表も減少している。次年度は、教員の話し合い等を参考に、ニーズに合った研究推進に関する研修会等を開催していく。

平成 27 年度 F D 委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎平澤則子、水口陽子、野村憲一、高島葉子、徐淑子、○飯田智恵、小林綾子、
谷内田潤子
事務局：宮崎達也

2. 活動概要

(1) 教員の教育評価及び教育能力の開発に関する事項

①学生による授業評価アンケート調査（担当：野村、高島、平澤）

授業評価アンケートの実施率は、前期科目は 88%、後期は 95%であった。集計結果は、
本学ホームページの「学内専用」に以下の構成で公開することとした。

ア. 授業評価アンケート実施教員数・実施科目（教員数・科目数・履修者数・回答者数）
イ. 全体集計結果（12 項目の平均）

学年別、大科目群別（基礎科目・専門支持科目・専門科目）、科目群別（人間と文化
等 16 区分）

本学の授業評価アンケートは実習科目を対象にしていないが、他大学の実施状況や外
部評価委員からの助言を受け、次年度から実習科目も対象にすることとした。

②FD マザーマップを活用した研修会（担当：飯田、谷内田）

事前に FD マザーマップへの自己チェックを実施し、グループワークを通して教員が自
身の課題に気づくことを目的として開催した（9/25、参加者 14 名）。アンケート結果か
ら目的は達成されたことを確認した。課題として研究活動への支援、学内 FD 研修会の充
実に関するニーズがあることがあげられ、対応策を検討した。

③新任教員研修会（担当：徐、平澤）

他大学で実施されている新任教員研修の目的や方法、成果について情報収集し、本学
の新任教員への組織的な FD 企画について検討した。その結果、次年度より初任者研修会
を開催することになった。

④FD マザーマップ調査（担当：水口、小林、平澤）

FD 推進に向けた本学の組織的課題を把握するために、本学教員を対象に FD マザーマ
ップに基づく調査を実施した。その結果、教育と研究能力の開発が課題として認められ、
次年度は教育能力の開発に向けた研修会（主にアクティブラーニング）を開催すること
になった。

(2) 教育方法の開発に関する事項

特になし

(3) カリキュラム開発への協力に関する事項

特になし

(4) その他学長から付託を受けた事項

特になし

3. 次年度の課題

教員の教育能力、研究能力の開発が課題であり、教務委員会や研究推進委員会等と連携して対応していく必要がある。

平成 27 年度 国家試験対策・就職委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎高島葉子、○高林知佳子、酒井禎子、渡辺弘之、山田真衣、中澤紀代子、
石原千晶、安藤亮

事務局：横川まゆ子

2. 活動概要

1) 国家試験対策の企画および実施について

(1) 国家試験対策講義

・看護師・保健師・国家試験対策については、学生へのガイダンスを行い、さらに 7 月～11 月にかけて国家試験対策講義を 18 回実施し、助産師は領域において計 5 回行った。また、学生への国家試験対策指導を充実させるための教員セミナーを座談会形式で行った。

(2) 国家試験模擬試験のサポート

・看護師は 6 回、保健師は 3 回、助産師は 5 回の業者模試を実施、委員会で各 1 回ずつの模試を実施した。結果をふまえ、ゼミおよび国家試験対策委員会で継続的にフォローした。

(3) 国家試験激励会および国家試験受験状況及び結果

		受験者数	合格者数	合格率	全国合格率 (新卒のみ)	全国合格率 (既卒含む)
看	新卒	90	90	100%	94.9%	89.4%
	既卒	2	1	50%		
保	新卒	93	91	97.8%	92.6%	89.8%
	既卒	1	0	0%		
助	新卒	4	4	100%	99.8%	99.8%

2) 進路指導について

各学年の進路指導の目標を明確にし、学生がキャリア形成の意義を理解し、自らの進路が決定できるように進路ガイダンスを 5 回実施した。参加者は自分に必要とするガイダンスを選択して受けている。アンケート結果では、進路選択に役立ったとの回答が多かったが、開催時期に対するニーズにはばらつきがあった。

3) 求人訪問対応と進路情報の提供

- ・57 件の求人訪問に対する対応を行った。前年度より 3 件少なかった。
- ・就職情報コーナー、V ドライブの求人施設情報などにおいて情報提供していること周知。

4) 進路状況調査

- ・進路ガイダンス、国家試験手続き、ゼミを通じて学生に周知した。

3. 次年度に向けた課題

- ・就職支援に関して、看護研究交流センターとの役割分担や共働をすすめていく
- ・国家試験対策講義のあり方と学生の希望する重点科目の検討
- ・学生の学習進度に応じた 5 回の進路ガイダンスの継続と周知と参加の促し。

平成 27 年度 入試・広報委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎野村憲一、○大久保明子、山田正実、山岸まなほ、飯田智恵、渡邊千春、川島良子、天谷まり子、風間みえ、安藤亮

事務局：山本清司、田村則宏、星野史

2. 活動概要

1) 入試実施本部会議に関する事項

(1) 推薦・社会人入学試験、一般入学試験（前期、後期日程）、3 年次編入学試験、科目等履修生入学試験の実施計画の提案、入試問題出題計画、入試説明会、試験実施、合格判定会議、合格発表等の計画を提案し、実施した。

(2) 平成 28 年度入学試験の実施日程を提案した。

2) 大学入試センター試験の実施に関する事項

・大学入試センター試験入試担当者連絡協議会への参加（2 回）・試験会場設定大学連絡協議会への参加（1 回）・大学入試センター試験説明会（学内向け 1 回）、リスニングの説明会 2 回を実施した。不参加者のための DVD を作成、従事者に周知を図った。

3) 入試問題の作成、管理、実施に関する事項

(1) 本学の選抜試験の作成、管理、実施は、ガイドラインにそって厳正に行った。また、大学入試センター試験についても厳重に保管、実施した。

(2) 本学入学試験と大学入試センター試験の実施の反省と今後の課題

大きな問題は無かったが、イヤホンの回収について、来年度の対応を考え、準備する予定である。

4) 学生募集に関する事項

(1) 学校説明会（31 回）、出前講義（7 回）、学内見学（12 回）、オープンキャンパス（2 回、参加者合計 463 名）を行った。

(2) 広報誌の作成

広報誌（ポルティコの広場）、大学案内（ガイドブック）の作成、各種広報誌（上越かわらばん、NOSAI）への投稿計画、執筆依頼を行った。

5) 大学のホームページに関する事項

大学ホームページの管理及び運営を行った。教員紹介の内容を 4 月に更新した。次年度の更新に向けて作業中である。規定に従い、ホームページの構成の見直しを行い必要な部分を更新した。

6) 予算

入試・広報関連として、オープンキャンパス、学校説明会用の旗などを購入した。

3. 次年度に向けた課題

以前に出願のなかった高校から、あらたに受験生が来ていることから、次年度はさらに広報活動に励みたい。

平成 27 年度 図書委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎関谷伸一、○橋本明浩、藤田 尚、山田真衣、高塚麻由、野口裕子
事務局：本山宏一、吉原貴子（司書）

2. 活動概要

（1）管理運営

- ①図書館費 10,045 千円（前年度と同額）．雑誌購読費 3,090 千円、図書購入費 1,580 千円
- ②入館者数、貸出冊数、文献依頼件数などの利用統計を月別にまとめ分析した。
- ③各種協議会・研修会等への参加
 - ・公立大学協会図書館協議会総会（関谷図書館長）
 - ・国公立大学図書館協力委員会 研修のあり方ワーキンググループ（吉原司書）3 回
 - ・新潟県大学図書館協議会総会（本山係長）
 - ・新潟県大学図書館協議会研修会（本山係長）
 - ・公立大学協会図書館協議会関東・甲信越地区館会議（吉原司書）
 - ・著作権セミナー（野口委員）
 - ・上越教育大学附属図書館見学（山田委員、高塚委員）
 - ・公立大学協会図書館協議会拡大役員会（吉原司書）
- ④上越教育大学附属図書館と共同で蔵書交換展示会を実施した。期間：第 1 回 6 月 15 日～7 月 24 日、第 2 回 12 月 1 日～1 月 9 日。交換展示図書：上教大から 50 冊、看護大から 50 冊。
- ⑤蔵書点検：図書館 2 月 29 日～3 月 4 日、研究室 1 月 4 日～29 日に実施した。
- ⑥図書館の環境整備：アンケート調査を実施し、利用者ニーズを把握した。その結果を踏まえて、2 階の全閲覧机にコンセントを整備した。
- ⑦データベース講習会：EBSCO 利用講習会を 1 回開催した。

（2）図書館のちからプロジェクト

図書館の利用促進を図るプロジェクトとして以下の活動を行った。

- ①新入生図書紹介（4 月 15 日、5 月 13 日）
- ②図書館内 DVD 上映会（6 月 3 日）
- ③大学祭での DVD 上映会（10 月 31 日）

（3）広報活動

「図書館だより」No. 37 を 7 月に、No. 38 を 1 月に発行。

学外配布先：県内大学図書館・病院を中心に 66 機関。

（4）図書購入

- ①教員推薦図書：9 月～10 月に 1 回、予算額 93 万円、163 冊（昨年度+33 冊）視聴覚 4 巻、電子ブック 8 点の推薦、購入。
- ②学生リクエスト図書：5 月～6 月に 1 回、予算額 8 万円、17 冊の購入。
- ③リクエストボックス：随時受付し、47 冊購入（学生リクエスト 15 冊）。

④重点収集図書：「私を支える本」として、予算 4 万円、24 冊選書し購入した。

⑤学生によるブックハンティング

学生リクエストが少なかったことから、学生自らが書店で選書する学生ブックハンティングを試みた。1 人 1 万円で 6 名募集し、参加者 6 名。学生の選書した本はすべて購入した上で、学生作成の POP を付けて館内展示した。展示中 96 回の貸出があった。

(5) 雑誌購入

①購読雑誌の見直し

一般雑誌購読希望調査を学生対象に 12～1 月にかけて実施し、購読中止 2 誌、新規購読 2 誌とした。その結果、購読数の増減はなく 10 誌のままとなった。

(6) 蔵書の更新・除籍に関すること

①「除籍に関する内規」を廃止し、「除籍に関する要領」を制定した。

②寄贈図書（2 月末現在）：図書 258 冊，視聴覚 0 巻

③除籍：図書 848 冊，視聴覚 7 巻

(7) リポジトリ「にこナース」

①平成 27 年 12 月 1 日付で JAIRO Cloud に移行した（特別整備費：918 千円）。

②リポジトリ運用指針を改正した。

③新規登録：56 件（紀要 3 件、学術論文 10 件、自己点検評価報告書，平成 26 年度センター活動報告書，看護大通信 12 件、その他 29 件）

(8) 図書館ホームページ

①平成 28 年 1 月 20 日付で図書館ホームページをリニューアルした。

（特別整備費：525 千円）

②教員推薦図書ページ「おすすめの一冊」を新規開設した。

③本学紀要ページを新規開設した。

3. 次年度に向けた課題

- ・図書館内に絶対的にスペースが不足している。新規購入図書のスペースを確保するため、古い雑誌、古い図書の除籍を進めていく。
- ・利用促進を図るため、図書館のちからプロジェクトを継続する。
- ・利用者に親しみやすくするため、「図書館だより」のタイトル名を変更、リニューアルを検討する。

平成 27 年度 紀要委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎高柳 智子、○高林 知佳子、関谷 伸一、岩永 喜久子
事務局：吉原 貴子(司書)

2. 活動概要

(1) 新潟県立看護大学紀要 第 5 巻の編集および発行

定例委員会 5 回とは別に、編集会議を 8 回開催した。今年度は、昨年度の投稿促進策検討内容をもとに、①投稿受付期間を 1 か月から 3 か月(5 月 11 日～8 月 21 日)に試験的に拡大 ②大学院ガイダンスでの周知の 2 点を追加で行い、大学ホームページや学内メールでの周知に併せ積極的に投稿の呼びかけを行った。投稿論文数は 2 件(原著 1 論文、資料 1 論文)あり、査読者の意見をふまえ編集会議にて採否を決定した。また、新たな試みとして国際交流委員会に国際交流協定覚書締結したホーチミン医科薬科大学ホア先生の招聘講演の原稿依頼を行った。

結果、招聘講演 1 件、資料 1 件(査読つき論文)の計 2 論文を掲載することができた。発行形態は今まで同様に電子ジャーナルであり、平成 28 年 2 月 17 日(水)に本学リポジトリに登録した。電子版組作業 41,472 円は、今年度より予算化された紀要発行費用より支出した。

(2) 紀要編集過程における紀要委員の業務内容の明確化

昨年度の編集過程での課題として残った各論文担当委員の役割・範囲について、過程ごとにマニュアル化し、委員会内で共通認識を得たうえで編集作業を行った。

3. 次年度に向けた課題

新たな投稿促進策として、査読プロセスに関する研修会開催(平成 27 年 3 月開催)ならびに投稿受付期間拡大、大学院生への周知を行ったが、投稿件数の増加には結びつかなかった。毎年、投稿受付期限 1 週間前ころから投稿が出始めることから、次年度は投稿受付期間を 1 か月に戻すことを予定している。また、査読過程の中で取り下げや不採用により掲載論文数は前後するものの、事前に投稿件数の見通しを得て紀要編集を円滑に進めていく目的で、次年度発行予定の第 6 巻より投稿事前届出書を試行する(試行のため、事前届出書の提出がなくても投稿受付期間内に投稿された原稿は受け取る)。この導入は、上記理由と併せて投稿予定者の論文作成の動機づけを図ることも意図している。

4. その他

平成 27 年 1 月～12 月の本学紀要第 1 巻～第 4 巻の閲覧は総計 6280 件、ダウンロードは総計 25518 件であった。

参考値：平成 26 年 1 月～12 月の本学紀要第 1 巻～第 3 巻の閲覧は総計 4442 件、ダウンロードは総計 21434 件。

※リポジトリシステム変更に伴い、検索エンジンによる自動検索は除外されるように

なった。システム変更後のアクセス件数はその分目減りしているため、単純な数値比較はできない。

平成 27 年度 教学小委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎小泉美佐子 ○加城貴美子、水口陽子、岩永喜久子、石田和子、高柳智子、
平澤則子、田口玲子

事務局：山本清二、本山宏一

2. 活動概要

平成 27 年度大学院の教務運営に関して研究科委員会と連動した年間活動計画を立て活動した（別紙参照）

年度初めに役割分担を行った：シラバス（石田）、学生便覧（小泉、岩永）、時間割（高柳、田口）、論文発表会（平澤、水口、加城）

（1）新入生及び学年ガイダンス

入学式当日、新入生 13 名に対してガイダンスを行った。同日、M2 生に対してもガイダンスを実施した。

（2）平成 28 年度入学生から適用の教育課程改正

平成 28 年度入学生から地域看護 CNS コースの募集を中止することに伴い地域看護学科目群の授業科目を地域看護学特論、地域看護学援助論Ⅰ、地域看護学援助論Ⅱ、地域看護学特別演習の 4 科目で構成することにした。また、科目責任者の退職により、文献講読、形態機能学特論を廃止とした。

（3）新・旧カリキュラムの読替え

新カリキュラム基盤看護分野・共通基盤分野の授業科目新設に伴い、旧カリ学生の新カリ新設科目履修を認め、その他（基盤看護分野・共通基盤分野・専門分野から）の選択科目 8 単位以上で認定することとした。

（4）大学院入試説明会・相談会の実施

入学小委員会と連携して、6 月 27 日（土）どこでもカレッジ終了後に大学院入試説明会を実施した。また、9 月 26 日（土）11:00-16:30 に大学院進学相談会を開催した（地域課題研究発表会と同時開催）。

（5）大学院生向け特別セミナーの開催について

9 月 19 日（土）に特別セミナーを老年看護学領域が中心となり開催した。千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター 特任教授・大塚眞理子講師による「専門職連携実践を推進する看護職とその育成」の特別セミナーが行われた。参加者は、院生 18 名（1 年次 10 名、2 年次 3 名、3 年次 5 名）、教員 11 名、学外者 3 名の 32 名であった。次年度以降も科目群の輪番で開催することとした。

（6）大学院を新たに担当する教員の選考

第 10 回・11 回の委員会において大学院を新たに担当する教員の選考を行った。

研究指導教員（看護管理学）：山岸まなほ准教授

研究指導補助教員（老年看護学）：河原畑尚美准教授（H28 年 4 月採用予定者）

授業担当教員：担当科目「看護理論」高橋照子教授（H28 年 4 月採用予定者）

授業分担者：河原畑尚美准教授、川野栄子准教授（H28 年 4 月採用予定者）、高島葉子准教授（H28 年 4 月教授昇任）、井上智代講師、石原千晶助教を選考した。

（7）平成 26 年度学位論文審査及び修士論文発表会開催

7 名の論文提出があり（4 名は研究コース、3 名は CNS コース）、論文審査委員会を組織して論文審査・口頭試問を行った。結果、全員合格と認定され修了要件を確認して研究科委員会の審議を経て全員修了の運びとなった。学位論文発表会が平成 28 年 3 月 4 日に行われ、出席者は 68 名（教員 30 名、大学院生 26 名、その他：事務職員・外部の看護職等 12 名）であった。

3. 次年度に向けた課題

（1）専門看護師教育課程（26 単位）の共通科目（看護学研究法、看護理論、看護倫理特論、看護政策論、看護コンサルテーション論）の更新申請

一般社団法人・日本看護系大学協議会に平成 28 年 7 月 1 日～7 月 31 日の間に関係書類をもって申請する。

（2）修士論文研究計画書審査

研究の科学的合理性、倫理的妥当性に関して厳正な審査を実施して、続く倫理審査を円滑に受審できるようにする。

年間日程

日程	研究科全体の動き	日程	教学小委員会
4月 1 日	第1回大学院研究科委員会 ・平成 28 年度大学院入試概要	4月 7 日	オリエンテーション M2:14:00～ M1:15:10～ ・時間割、便覧、シラバス、成績表配付 ・学位論文提出までの日程通知
24 日	・履修届の提出と取りまとめ ・主指導者届出提出期限	15 日	第1回教学小委員会 ・年間予定及び役割分担
5月 7 日	第2回大学院研究科委員会 ・開講科目確認 ・非常勤対応 (受講者が1名の場合)	5月 20 日	第2回教学小委員会 ・新入生主指導者の確認 ・履修届の提出、履修状況の確認 ・時間割未開講科目(非常勤)の対処
6月 3 日	第3回大学院研究科委員会	6月 17 日	第3回教学小委員会 ・前期成績取りまとめ時期 →成績提出時期告知
7月 1 日	第4回大学院研究科委員会	7月 15 日	第4回教学小委員会
8月 27 日	8月入試	8月	
9月 2 日	第5回大学院研究科委員会 ・大学院科目等履修生入学試験の概要	9月 16 日	第5回教学小委員会 ・次年度時間割の検討
10月 7 日	第6回大学院研究科委員会 ・科目等履修生の募集	10月 21 日	第6回教学小委員会 ・前期成績取りまとめ ・後期修士論文計画書の審査に関する事項
11月 4 日	第7回大学院研究科委員会	11月 18 日	第7回教学小委員会 ・次年度非常勤講師要望調査 ・学位論文提出予定者確認 ・次年度時間割、シラバス原稿提出日程
12月 2 日	第8回大学院研究科委員会 ・次年度時間割、シラバス 原稿提出の告示	12月 16 日	第8回教学小委員会 ・次年度非常勤講師選考 ・学位論文審査委員選出 ・発表会の企画立案・告示
1月 6 日	第9回大学院研究科委員会 ・修士論文審査委員体制告示	1月 20 日	第9回教学小委員会 ・中期計画当年度実績及び次年度計画検討 ・修士論文発表会の企画 ・次年度非常勤講師選考 ・後期成績提出日程の検討
25 日	学位論文審査・最終試験(2/16 まで)		
2月 1 日	2月入試	2月 17 日	第 10 回教学小委員会 ・修士論文審査・修了予定者の単位取得状況 ・論文発表会に関する検討と告示 ・次年度時間割、シラバス最終確認 ・次年度担当専任教員の選考審査 ・次年度非常勤講師選考
3 日	第 10 回大学院研究科委員会 ・次年度シラバス、時間割等の検討 ・次年度非常勤講師選考		
18 日	論文公開(2/23 まで)		
24 日	第 11 回大学院研究科委員会(臨時) ・論文審査・修了判定		
3月 2 日	第 12 回大学院研究科委員会 ・次年度担当専任教員の選考審査 ・次年度非常勤講師確認	3月 4 日	修士論文発表会
		16 日	第 11 回教学小委員会

平成 27 年度 入学小委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎岩永喜久子、○田口玲子、石田和子、原等子、岡村典子、徐淑子

事務局：山本清司

2. 活動概要

(1) 入学者の選考に関する事項

①平成 28 年度大学院入学者の選抜試験の実施

平成 28 年度大学院入学者選抜試験を、8 月入試と 2 月入試として、それぞれ平成 27 年 8 月 27 日（木）と平成 28 年 2 月 1 日（月）に実施した。8 月入試で 3 名が合格し（受験者 4 名）、2 月入試合格者 2 名（受験者 3 名）と合わせて 5 名が決定した。

②科目等履修生入学試験

平成 27 年度 10 月 1 日と平成 28 年度 4 月 1 日に入学者の募集を行ったが、応募者はなかった。

(2) 入学定員充足と選抜方法の見直しの取り組み

①新たに企画した大学院入試説明会を平成 27 年 6 月に開催し、県内や近隣県から 6 名の参加があった。

②大学院入試相談会を平成 27 年 9 月に実施し、CNS コースの希望者など県内外の施設から 5 名の参加があった。

③改定したアドミッションポリシーを、大学院のホームページはじめ、大学案内のチラシや学生募集要項などに掲載するとともに、近隣施設へのチラシの配布などにより周知した。

④大学院入学者選抜における試験問題の出題・採点ミス防止のガイドラインを検討した。

3. 次年度に向けた課題

次年度の課題は、アドミッションポリシーに適った入学者選抜方法と入学定員充足であり、続けて検討する。